



SWX2200 GUI マニュアル

SWX2200-8PoE/SWX2200-8G/SWX2200-24G



Ver2.00

目次

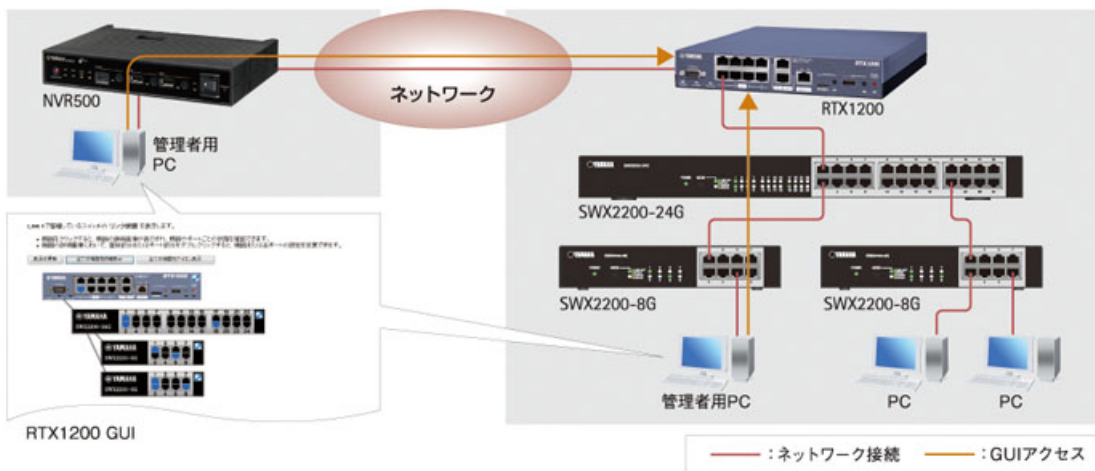
はじめに	4
SWX2200 設定ページの表示	5
ルーターの設定画面から SWX2200 設定ページへの進み方	5
基本的な操作	9
機器の表示を切り替える	9
■ 一台ずつ機器の表示を切り替える	9
■ 一度に全ての機器の表示を切り替える	10
トポロジーを表示する	11
■ 接続ポートの表示	11
■ 機器情報の表示	12
■ ポート情報の表示	13
設定画面を表示する	14
■ SWX2200 の設定画面を表示する	14
■ SWX2200 のポートの設定画面を表示する	15
ポートの基本機能	16
ポートの基本機能を設定する	16
VLAN の設定	18
マルチプル VLAN を設定する	18
■ SWX2200 設定ページのメニューから設定する	18
■ ポートの設定画面から設定する	21
タグ VLAN を設定する	23
■ SWX2200 設定ページのメニューから設定する	23
■ ポートの設定画面から設定を変更する	28
■ 設定したタグ VLAN の表示を切り替える	29
■ 設定したタグ VLAN を削除する	29
ホストの検索	31
ホストを検索する	31
ループ検出機能の設定	34
ループ検出機能を設定する	34
特定のポートのループ検出機能を無効にする	36
ループ状態を検出した場合	37
ポートミラーリング機能の設定	38
ポートミラーリング機能を設定する	38

SNMP 機能の設定	40
SNMP 機能を使用する	40
QoS の設定	45
QoS を設定する	45
統計情報の設定	48
統計情報を変更する	48
統計情報をリセットする	50
その他の設定	51
名称を変更する	51
省電力機能を設定する	52
ファームウェアを更新する	53
再起動する	55
設定を初期化する	56
■ SWX2200 設定ページから初期化する	56
■ SWX2200 本体から初期化する	58
機能追加	59
機器の名称表示	59
接続ポートの表示	60
ホストの一覧表示	61
タグ VLAN の一覧表示	62
LAN ケーブル二重化機能	63
指定方法の変更	65
スナップショット機能	66
SWX2200-8PoE のみの機能	68
機器情報の表示	68
ポート情報の表示	69
給電設定を変更する	70
給電を再開する	71
FAQ	73
ネットワークに接続できない	73
SWX2200 本体から初期化できない	73

はじめに

SWX2200 はヤマハルーターの GUI から、様々な管理・設定ができます。また、ルーターの GUI にアクセスできる環境であれば、遠隔拠点からも簡単に SWX2200 の状態を表示したり設定を変更できます。

この GUI マニュアルでは、ルーターの GUI から SWX2200 の管理・設定方法について説明します。



SWX2200 設定ページの表示

ルーターの設定画面から SWX2200 設定ページへの進み方

SWX2200 の設定変更は、ヤマハルーターに接続したパソコンの Web ブラウザーからヤマハルーターの設定画面を開いて行います。設定画面を開くには、以下の手順で操作します。



- ヤマハルーターの設定画面を使用するには、Windows 版 Internet Explorer 8.0 の Web ブラウザーが必要です。



- ヤマハルーターのコンソール画面からコマンドを入力して、設定画面よりも詳細な設定を行うことができます。詳しくは [コマンドリファレンス](#) をご覧ください。

1. ヤマハルーターの管理者向け設定画面のトップページを開く。

- SWX2200 の電源を入れて、ヤマハルーターの LAN ポートと LAN ケーブルで接続します。
- パソコンで Web ブラウザーを起動して、「ファイル」メニューから「開く」を選びます。
- 「http:// (ヤマハルーターの IP アドレス)」と半角英字で入力してから、「OK」をクリックします。
- 「管理者向けトップページへ」をクリックします。

2. ヤマハルーターの管理者向け設定画面のトップページから、画面左側の「スイッチ制御」をクリックする。

The screenshot shows the Yamaha RTX1200 web management interface. The left sidebar contains a menu with the following items:

- 初期設定
 - ウィザード
 - ハードウェア
 - アクセス管理
- ルーター機能
 - インターフェース
 - ルーティング
 - DNSサーバー
 - DHCP認証
 - NAT
 - IPsec
 - RADIUS
- セキュリティ機能
 - パケットフィルター
 - URLフィルター
 - 不正アクセス検知
 - セキュリティ診断
- スイッチ連携機能
 - スイッチ制御 (highlighted in a red box)
- 運用サポート機能

The main content area displays the '管理者向けトップページ' (Admin Top Page) with the following sections:

- 重要なお知らせ
 - メッセージ
 - 管理者パスワードが設定されていません。「アクセス管理」のページで設定してください。[アクセス管理に進む]
- ルーターの情報

機種名	ファームウェアバージョン	起動時刻	CPU使用率	メモリ使用率	温度
RTX1200	Rev.10.01.26 (build 16)	2011/02/19 05:59:15	0%	19%	33°C
- 実行中ファイル

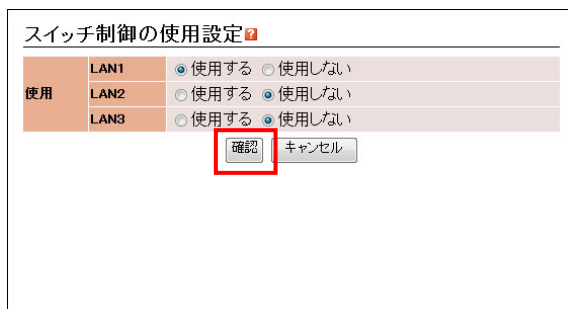
種別	ファイル	格納メモリ	ファイル名称
ファームウェアファイル		内蔵メモリ	exec0
設定ファイル		内蔵メモリ	config0
- LANポートの情報

識別名	リンク状態	リンク速度
LAN1	PORT1:Up	PORT1:1000-fdx
	PORT2:Up	PORT2:100-fdx
	PORT3:Down	PORT3:-
	PORT4:Down	PORT4:-
	PORT5:Down	PORT5:-
	PORT6:Down	PORT6:-
	PORT7:Down	PORT7:-
	PORT8:Down	PORT8:-

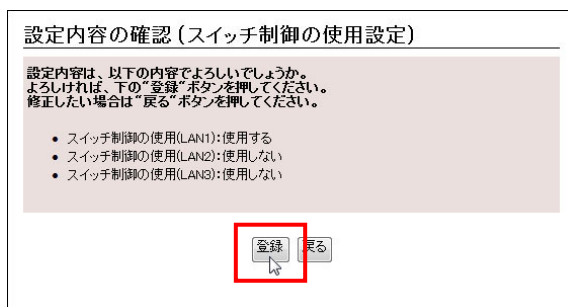
3. 「スイッチの管理」欄の「設定」をクリックする。



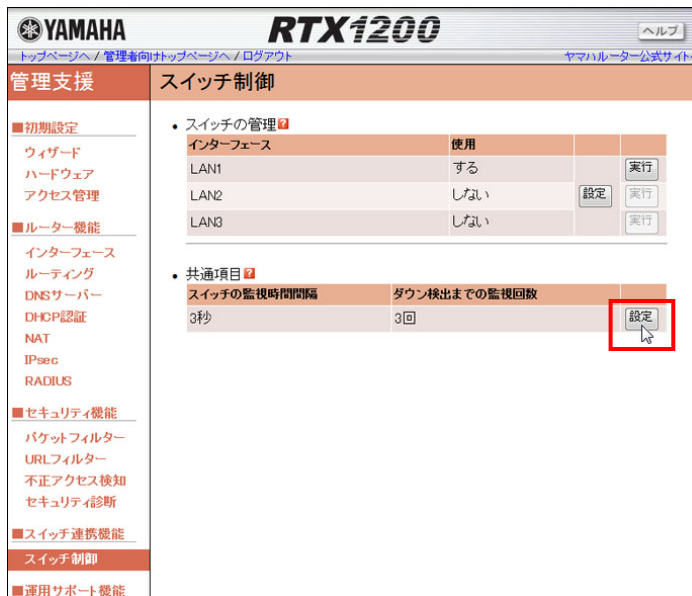
4. LAN1 を「使用する」に切り替えてから、「確認」をクリックする。



5. 設定内容を確認し、「登録」をクリック。



6. 「メイン画面に戻る」をクリックしてから、「共通項目」欄の「設定」をクリックする。

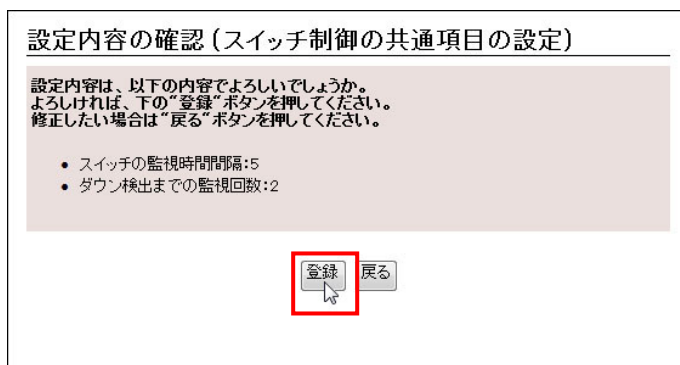


7. スイッチの監視時間間隔とダウン検出までの監視回数を設定し、「確認」をクリックする。

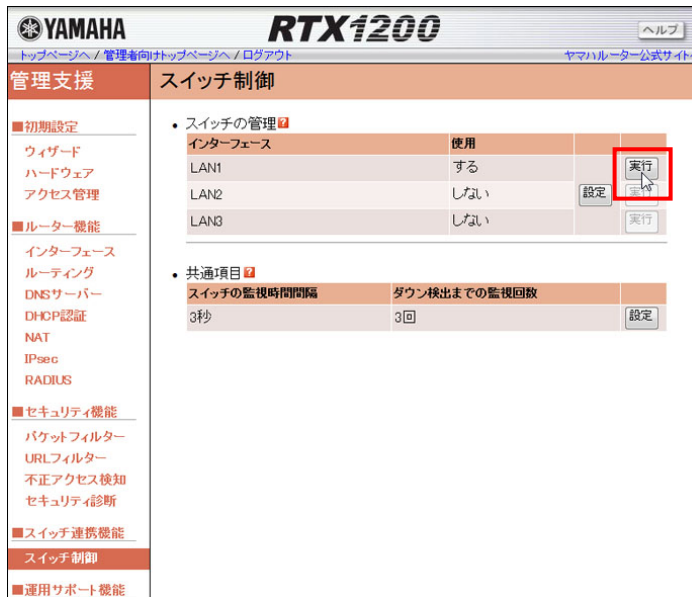
- スイッチの監視時間間隔：5 秒を指定する
- ダウン検出までの監視回数：2 回を指定する



8. 設定内容を確認し、「登録」をクリック。



9. 「メイン画面に戻る」をクリックしてから、SWX2200 を接続した LAN インターフェースの「実行」をクリックする。



10. 設定対象となる SWX2200 の設定画面を開き、設定を変更する。

設定対象となる SWX2200 をダブルクリックしてアイコンを拡大表示します。

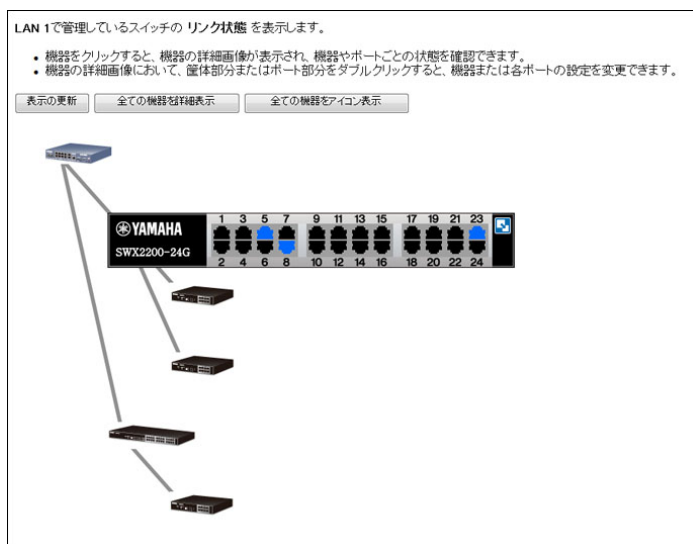
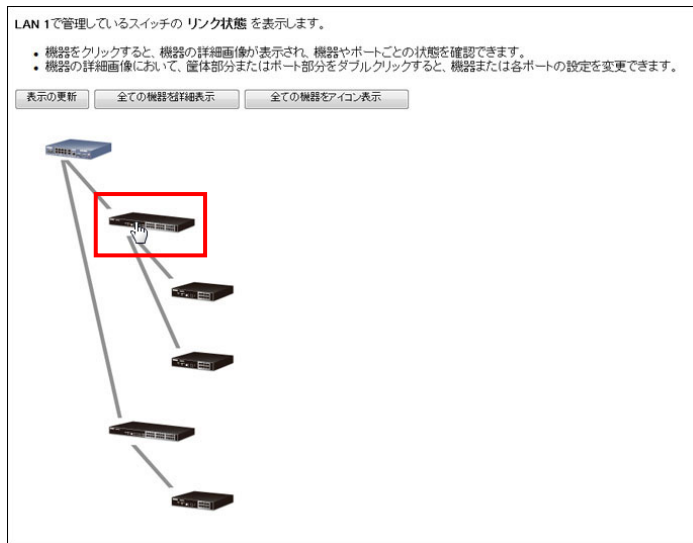
- SWX2200 の設定画面を表示する場合：拡大表示されたアイコンの筐体部分をクリックして設定画面を開きます。
- SWX2200 のポートの設定画面を表示する場合：拡大表示されたアイコンのポート部分をクリックして設定画面を開きます。

基本的な操作

機器の表示を切り替える

■ 一台ずつ機器の表示を切り替える

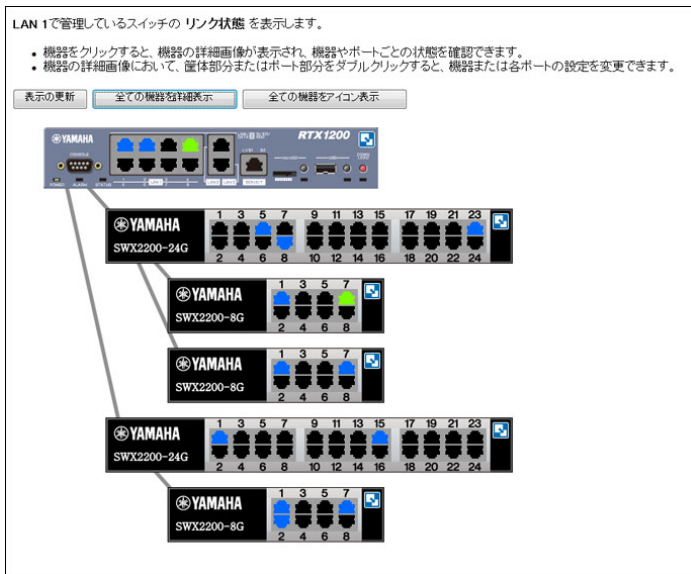
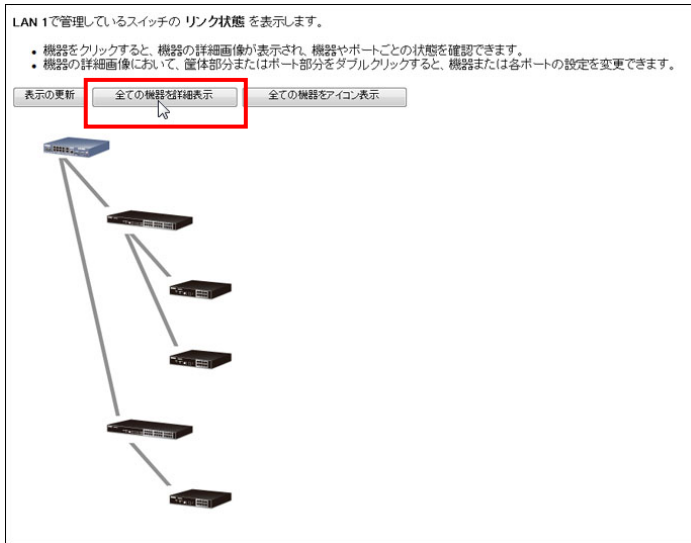
切り替えたい機器のアイコンをクリックすると、詳細表示に切り替わります。



- アイコン表示に戻すには、詳細表示の右上をクリックします。

■ 一度に全ての機器の表示を切り替える

「全ての機器を詳細表示」をクリックすると、全ての機器の表示が詳細表示に切り替わります。

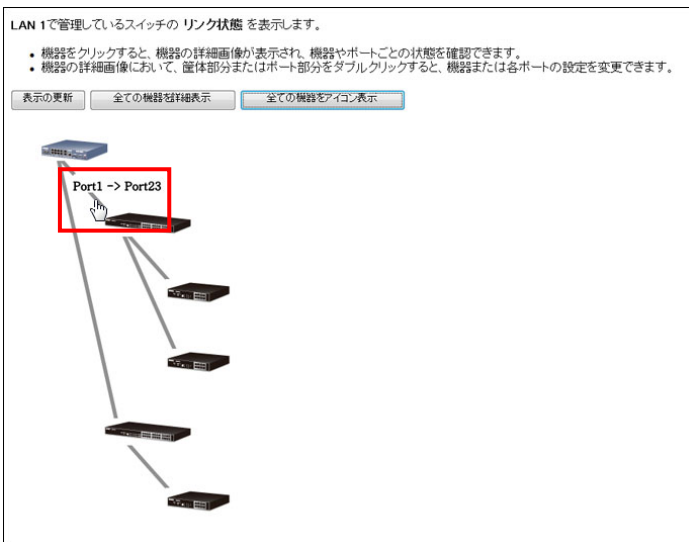
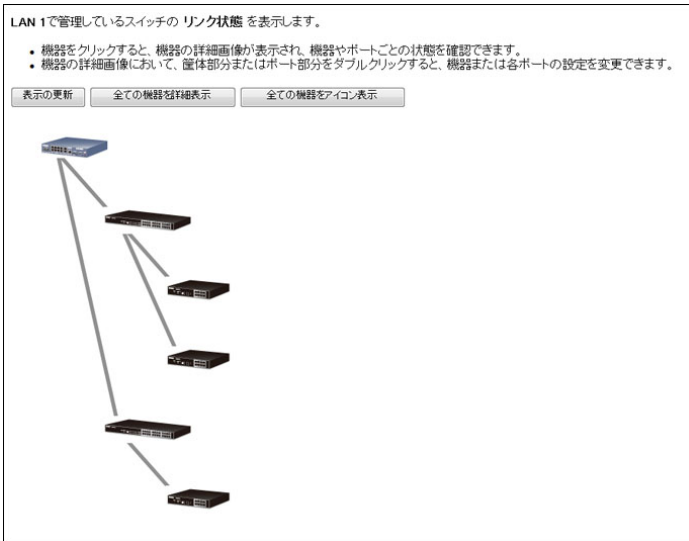


- 一度に全ての機器をアイコン表示に戻すには、「全ての機器をアイコン表示」をクリックします。

トポロジーを表示する

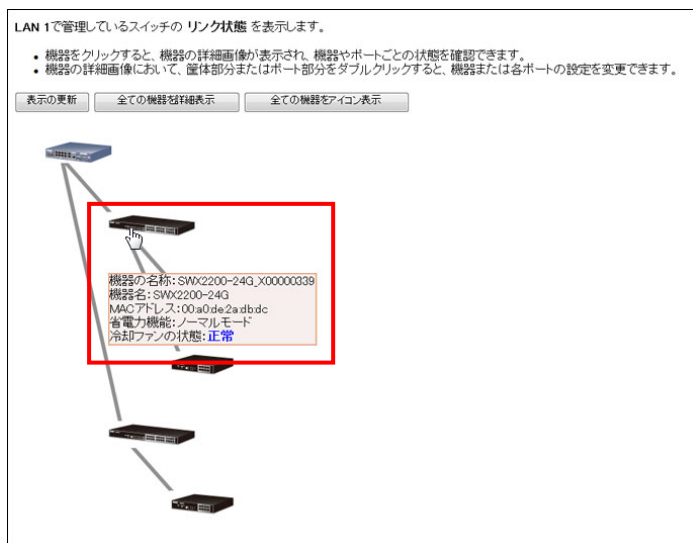
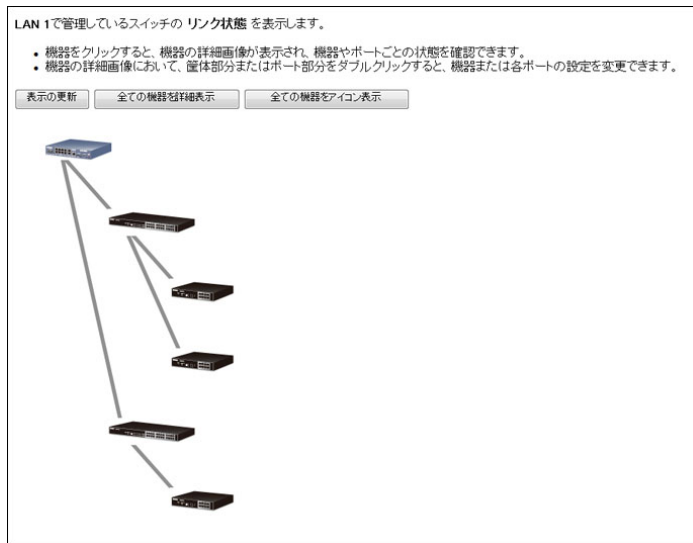
■ 接続ポートの表示

機器を結ぶラインにマウскарソルを合わせると、機器間の接続ポートが表示されます。



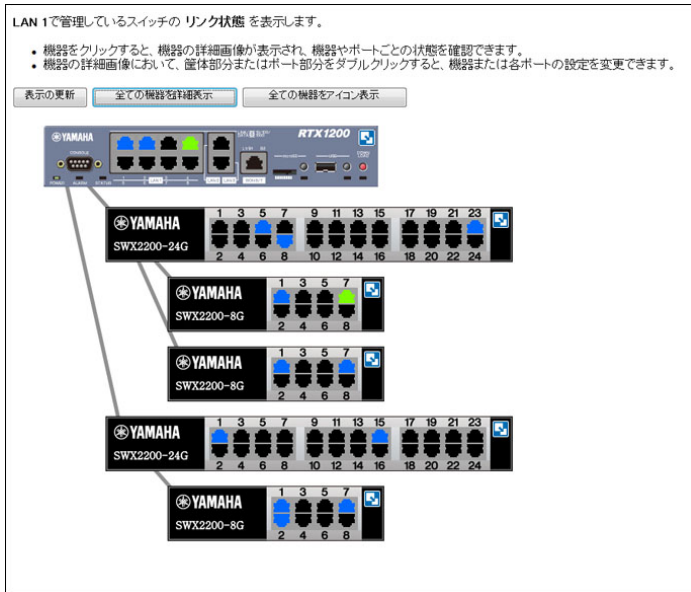
■ 機器情報の表示

機器にマウスカーソルを合わせると、機器の情報が表示されます。



■ ポート情報の表示

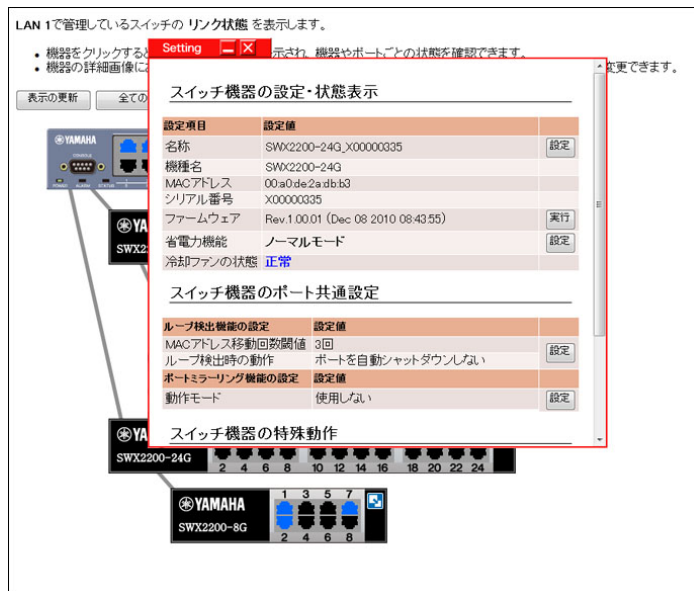
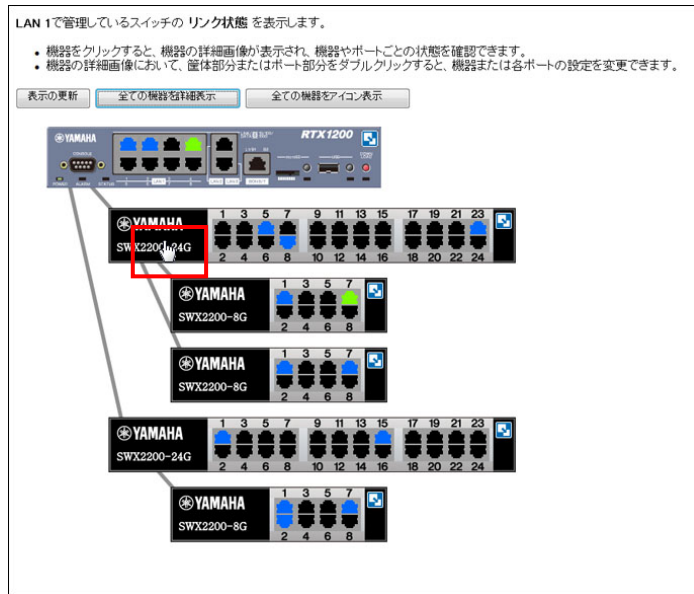
詳細表示の際に、ポートにマウスカーソルを合わせると、ポートの情報が表示されます。



設定画面を表示する

■ SWX2200 の設定画面を表示する

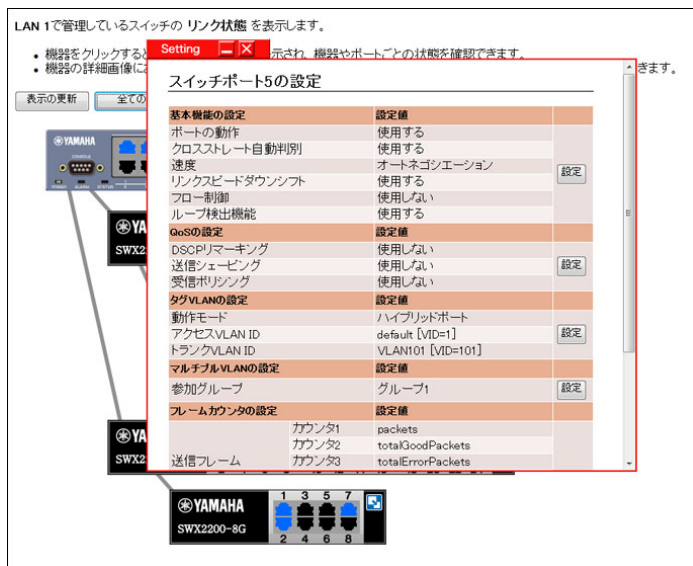
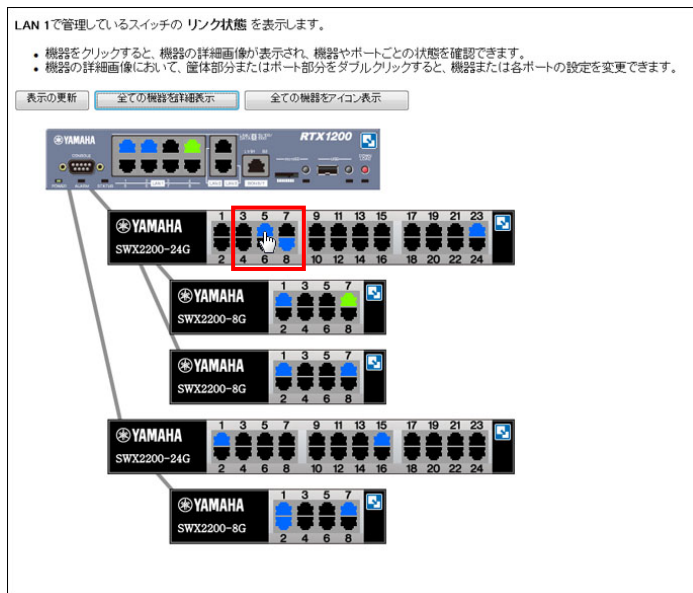
詳細表示された SWX2200 の筐体部分をダブルクリックして、設定画面を開きます。



- 設定画面で SWX2200 の設定内容を確認することができます。
- 設定画面を閉じるには をクリックします。

■ SWX2200 のポートの設定画面を表示する

詳細表示された SWX2200 のポート部分をダブルクリックして、設定画面を開きます。



- 設定画面で SWX2200 の設定内容を確認することができます。
- 設定画面を閉じるには **✖** をクリックします。

ポートの基本機能

ポートの基本機能を設定する

ポート毎に下記の設定を行うことができます。

- ポートの動作
- クロスストレート自動判別
- 速度
- リンクスピードダウンシフト
- フロー制御
- ループ検出機能



- ループ検出機能については「[特定のポートのループ検出機能を無効にする](#)」をご覧ください。

1. 設定を変更するポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「基本機能の設定」欄の「設定」をクリックする。

基本機能の設定		設定値	
ポートの動作		使用する	
クロスストレート自動判別		使用する	
速度		オートネゴシエーション	設定
リンクスピードダウンシフト		使用する	
フロー制御		使用しない	
ループ検出機能		使用する	
QoSの設定		設定値	
DSCPリマーカーキング		使用しない	
送信シェーピング		使用しない	設定
受信ポリシング		使用しない	
タグVLANの設定		設定値	
動作モード		アクセスポート	
アクセスVLAN ID		default [VID=1]	設定
トランクVLAN ID			
マルチVLANの設定		設定値	
参加グループ			設定
フレームカウンタの設定		設定値	
	カウンタ1	packets	
	カウンタ2	totalGoodPackets	
	カウンタ3	totalErrorPackets	
送信フレーム			

3. ポートの基本機能を設定し、「設定」をクリックする。



VLAN の設定

マルチプル VLAN を設定する

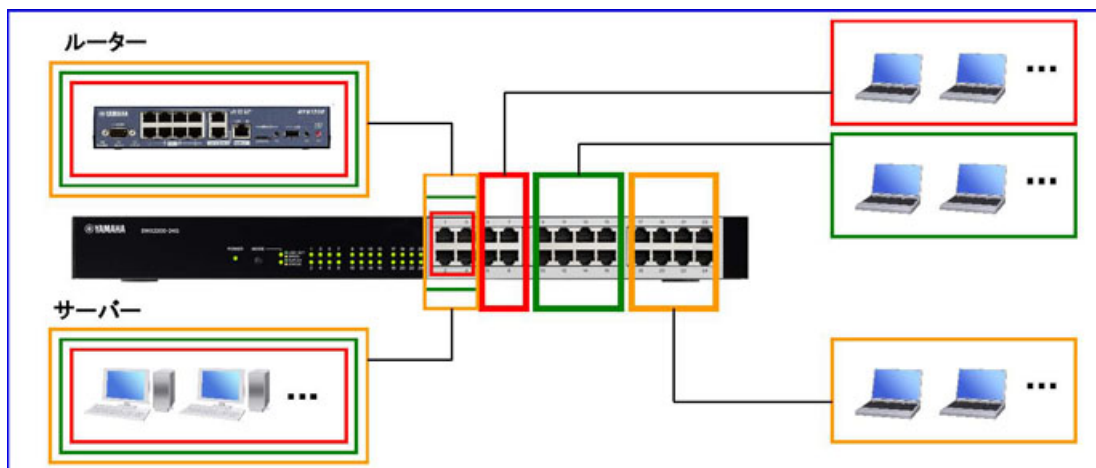
■ SWX2200 設定ページのメニューから設定する

1 台の SWX2200 において、ポートをグループに分けて、グループ間の通信を禁止する機能です。このとき、サーバーやルーターなど全グループと通信を行う必要がある端末が接続されるポートについてはすべてのグループに所属させることで通信を可能にします。

マルチプル VLAN 機能では、グループが異なっても同じネットワークアドレスが割り振られます。

ここでは以下の構成を例に説明します。

- ポート 1~4：サーバーやルーターなど全グループと通信が可能
- ポート 5~8：グループ 1（グループ 1 内の通信およびサーバーやルーターを経由する通信が可能）
- ポート 9~16：グループ 2（グループ 2 内の通信およびサーバーやルーターを経由する通信が可能）
- ポート 17~24：グループ 3（グループ 3 内の通信およびサーバーやルーターを経由する通信が可能）



- すべての端末が RTX1200 の LAN1 に設定された、一つのネットワークアドレスで動作します。

1. SWX2200 設定ページ下部のプルダウンメニューから、「マルチプル VLAN の表示」を選択する。



2. マルチプル VLAN の設定を行う SWX2200 をダブルクリックする。



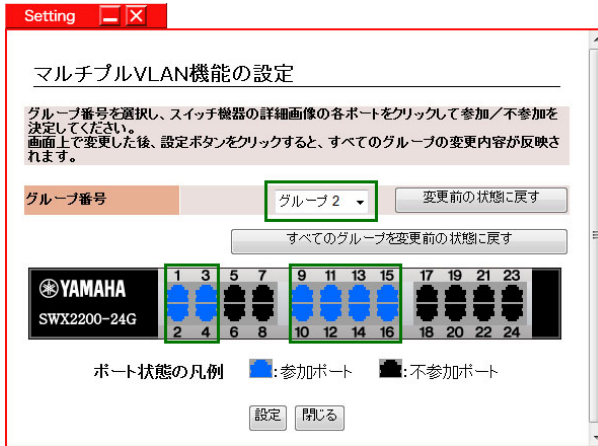
3. グループ 1 に所属させるポートを全てクリックする。

グループ 1 にポート 1~8 を所属させます。



4. グループ番号を「グループ 2」に変更してから、グループ 2 に所属させるポートを全てクリックする。

グループ 2 にポート 1~4、ポート 9~16 を所属させます。



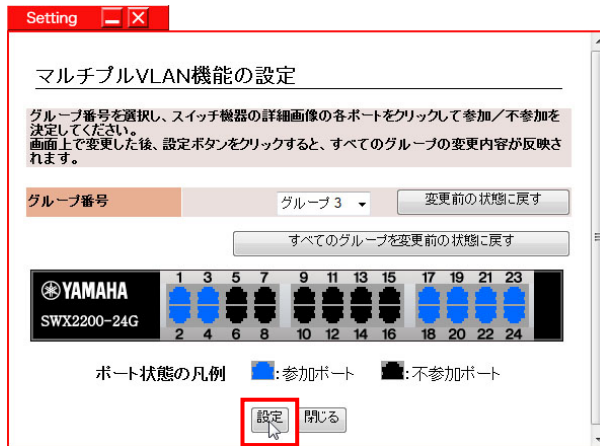
5. グループ番号を「グループ 3」に変更してから、グループ 3 に所属させるポートを全てクリックする。

グループ 3 にポート 1~4、ポート 17~24 を所属させます。



6. 「設定」をクリックする。

マルチプル VLAN の設定が登録されます。



■ ポートの設定画面から設定する

マルチプル VLAN の設定については、ポートの設定画面からでも登録を行うことができます。



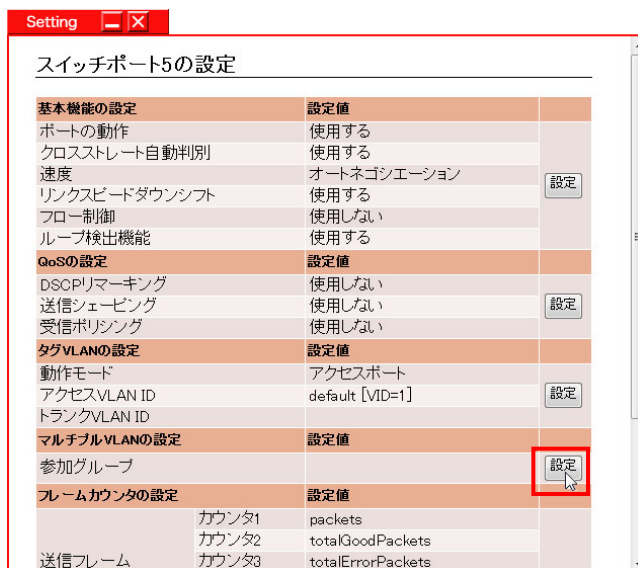
- マルチプル VLAN の機能については、「[SWX2200 設定ページのメニューから設定する](#)」も合わせてご覧ください。

1. マルチプル VLAN の設定を行うポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「マルチプル VLAN の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. 所属させたいグループにチェックを入れてから、「設定」をクリックする。

マルチプルVLANの設定が登録されます。



タグ VLAN を設定する

■ SWX2200 設定ページのメニューから設定する

タグ VLAN 機能は、SWX2200 のポートをグループ分けし、グループ毎に異なる VLAN ID を付加する機能です。ルーターではグループ毎に異なるネットワークアドレスが設定されます。異なるネットワークアドレス間の通信はヤマハルーターを経由して行われます。

ここでは以下の構成を例に説明します。

RTX1200 : LAN1 に SWX2200 を設置

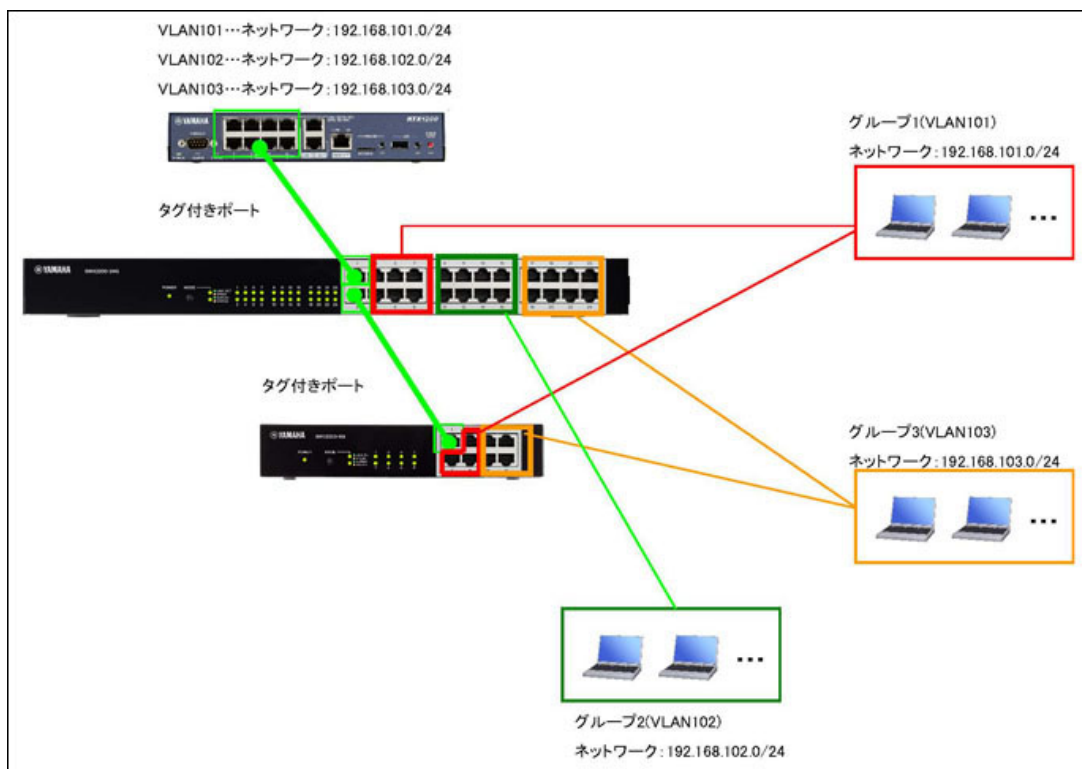
- VLAN-ID 101 のネットワークアドレスを 192.168.101.0/24
- VLAN-ID 102 のネットワークアドレスを 192.168.102.0/24
- VLAN-ID 103 のネットワークアドレスを 192.168.103.0/24

SWX2200-24G

- ポート 1 : RTX1200 と接続
- ポート 2 : SWX2200-8G と接続
- ポート 3~8 : グループ 1(VLAN-ID 101 に設定)
- ポート 9~16 : グループ 2(VLAN-ID 102 に設定)
- ポート 17~24 : グループ 3(VLAN-ID 103 に設定)

SWX2200-8G

- ポート 1 : SWX2200-24G と接続
- ポート 2~4 : グループ 1 (VLAN-ID 101 に設定)
- ポート 5~8 : グループ 3(VLAN-ID 103 に設定)



1. SWX2200 設定ページ下部のプルダウンメニューから、「新規タグ VLAN の作成」を選択する。



2. グループ 1 (VLAN101) に所属させるポートを選択し、「設定」をクリックする。
グループ 1 に SWX2200-24G のポート 3~8、SWX2200-8G のポート 2~4 を所属させます。



- VLAN の名前とネットワークアドレスを変更する場合は、ヤマハルーターのアイコンをダブルクリックして行います。また、新規タグ VLAN の作成時は「VLAN ID」の変更も可能です。



- SWX2200-24G のポート 1・2、SWX2200-8G のポート 1 は自動的にタグ付きポートとして登録されます。
- RTX1200 には自動で VLAN101 のネットワークアドレス”192.168.101.0/24”が設定されます。

3. グループ 2 の VLAN を登録するため、下部プルダウンメニューから「新規タグ VLAN の作成」を選択する。



- 青枠で囲まれた SWX2200 は、グループ 1(VLAN101)に所属させたものになります。

4. グループ 2 (VLAN102) に所属させるポートを選択し、「設定」をクリックする。

グループ 2 に SWX2200-24G のポート 9~16 を所属させます。



- VLAN の名前とネットワークアドレスを変更する場合は、ヤマハルーターのアイコンをダブルクリックして行います。また、新規タグ VLAN の作成時は「VALN ID」の変更も可能です。



- SWX2200-24G のポート 1 は自動的にタグ付きポートとして登録されます。
- RTX1200 には自動で VLAN102 のネットワークアドレス”192.168.102.0/24”が設定されます。

5. グループ 3 の VLAN を登録するため、下部プルダウンメニューから「新規タグ VLAN の作成」を選択する。





- 青枠で囲まれた SWX2200 は、グループ 2(VLAN102)に所属させたものになります。

6. グループ 3 (VLAN103) に所属させるポートを選択し、「設定」をクリックする。

タグ VLAN の設定が登録されます。

グループ 3 に SWX2200-24G のポート 17~24、SWX2200-8G のポート 5~8 を所属させます。

LAN 1で管理しているスイッチの VLAN[VID=103] VLAN103の設定 を表示します。

- ルーターをダブルクリックすると、VLANの共通設定を変更できます。
- スイッチをクリックすると、スイッチの詳細画像が表示され、ポートごとのタグVLANへの参加状態が確認できます。
- スイッチの詳細画像表示中に、ポートをクリックすると、タグVLANへの参加不参加を変更でき、設定ボタンで変更を適用します。

表示の更新 全ての管理スイッチを詳細表示 全ての管理スイッチをアイコン表示

ポート状態の凡例
■: 参加ポート[タグなし] ■: 参加ポート[タグ付き] ■: 不参加ポート

VLANの設定を表示したり変更することができます。

選択してください

設定 戻る



- VLAN の名前とネットワークアドレスを変更する場合は、ヤマハルーターのアイコンをダブルクリックして行います。また、新規タグ VLAN の作成時は「VLAN ID」の変更も可能です。



- SWX2200-24G のポート 1・2、SWX2200-8G のポート 1 は自動的にタグ付きポートとして登録されます。
- RTX1200 には自動で VLAN103 のネットワークアドレス”192.168.103.0/24”が設定されます。

■ ポートの設定画面から設定を変更する

タグ VLAN の設定については、ポートの設定画面から変更することができます。



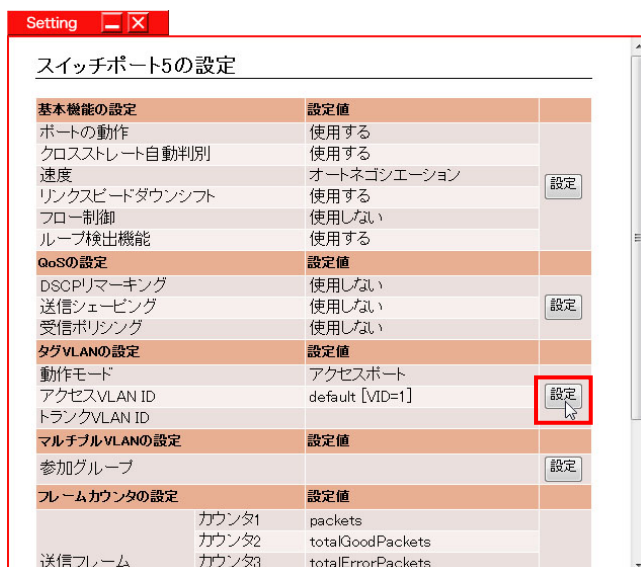
- タグ VLAN の機能については、「[SWX2200 設定ページのメニューから設定する](#)」も合わせてご覧ください。

1. タグ VLAN の設定を行うポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「タグ VLAN の設定」欄の「設定」をクリックする。



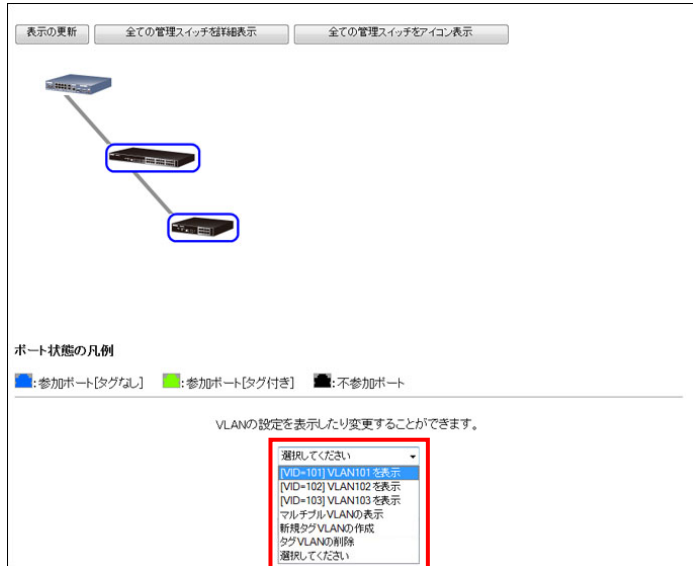
3. タグ VLAN の設定を変更し、「設定」をクリックする。

タグ VLAN の設定が登録されます。



■ 設定したタグ VLAN の表示を切り替える

SWX2200 設定ページ下部のプルダウンメニューから、表示するグループ (VLAN) を切り替えることができます。

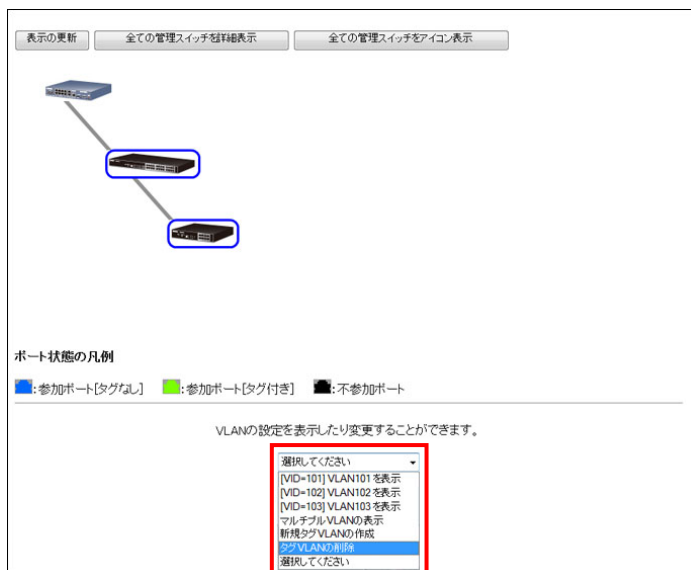


- 表示しているグループ(VLAN)に所属する SWX2200 が、青枠で囲まれて表示されます。

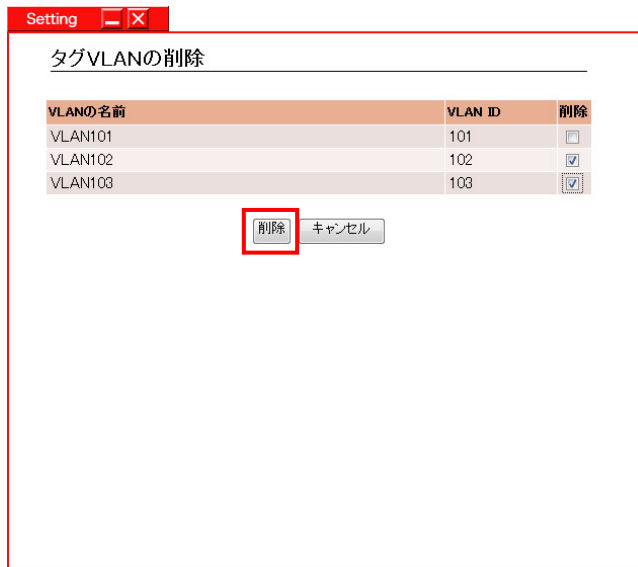
■ 設定したタグ VLAN を削除する

設定したタグ VLAN を削除する場合は以下の操作を行います。

1. SWX2200 設定ページ下部のプルダウンメニューから、「タグ VLAN の削除」を選択する。

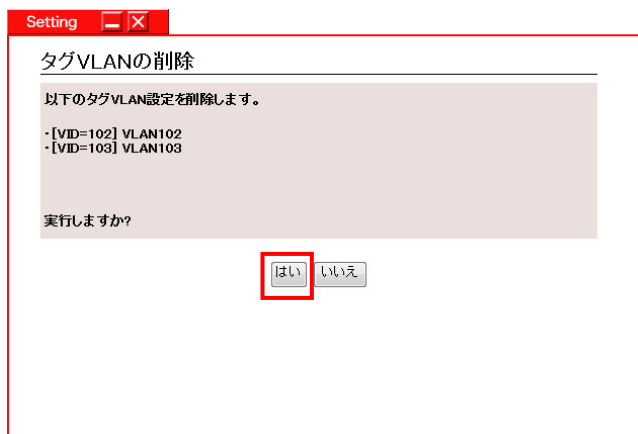


2. 削除したい VLAN ID にチェックを入れ、「削除」をクリックする。



3. 表示を確認し問題がなければ「はい」をクリックする。

タグ VLAN の設定が削除されます。



ホストの検索

ホストを検索する

PC が SWX2200 のどのポートに接続されているか検索することができます。

1. SWX2200 設定ページ下部の「ホストを検索する」をクリックする。



2. 検索条件を指定し、「検索」をクリックする。

The screenshot shows a 'Setting' window with the following sections:

検索するホストの指定

IPアドレス: PC-note05
 MACアドレス: MACアドレステーブルをクリアして検索する
 ホスト名: **検索**

DHCPクライアント一覧

ホスト名	IPアドレス	MACアドレス
PC-note01	192.168.100.2	00:40:45:30:a5:86
PC-note02	192.168.100.3	00:11:25:14:f2:f5
PC-note03	192.168.100.4	00:26:b0:da:7d:80
PC-note04	192.168.100.5	00:24:be:01:f2:c5
PC-note05	192.168.100.6	00:0d:60:7b:57:6c

ARPエントリ一覧

	IPアドレス	MACアドレス
	192.168.100.2	00:40:45:30:a5:86
	192.168.100.3	00:11:25:14:f2:f5
	192.168.100.4	00:26:b0:da:7d:80
	192.168.100.5	00:24:be:01:f2:c5
	192.168.100.6	00:0d:60:7b:57:6c

Buttons: 更新, キャンセル



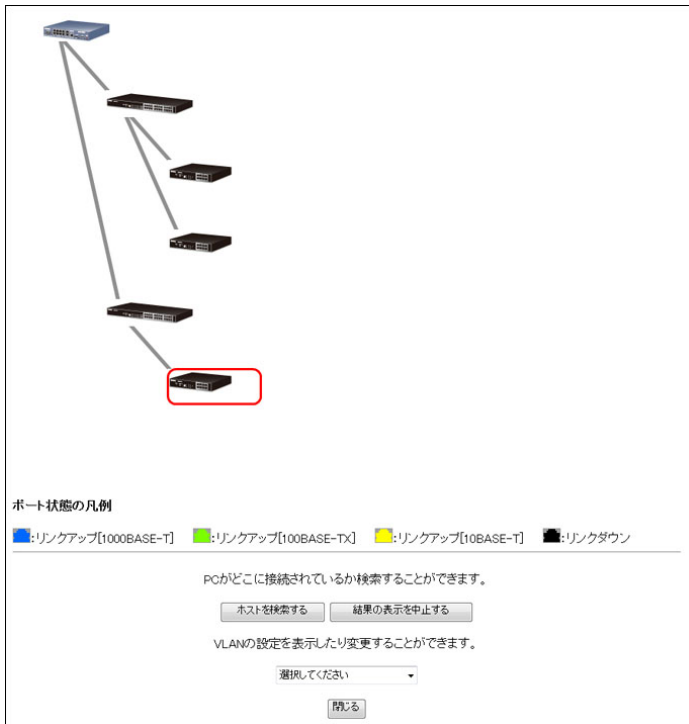
- PC の接続ポートを変更した直後に検索する場合は、「MAC アドレステーブルをクリアして検索する」にチェックを入れてください。チェックを入れず検索すると、誤検出する場合があります。
- ヤマハルーターの DHCP サーバー機能がオフの場合は、ホスト名からの検索ができません。ホスト名から検索する場合は、DHCP サーバー機能をオンにしてください。



- 検索条件は「DHCP クライアント一覧」や「ARP エントリ一覧」の該当項目をクリックすることで、指定することもできます。

3. 検索結果を確認する。

該当する機器が、赤枠で囲まれて表示されます。



- 該当する機器を詳細表示に切り替えることで、どのポートに接続されているか確認することができます。該当するポートが、赤枠で囲まれて表示されます。



ループ検出機能の設定

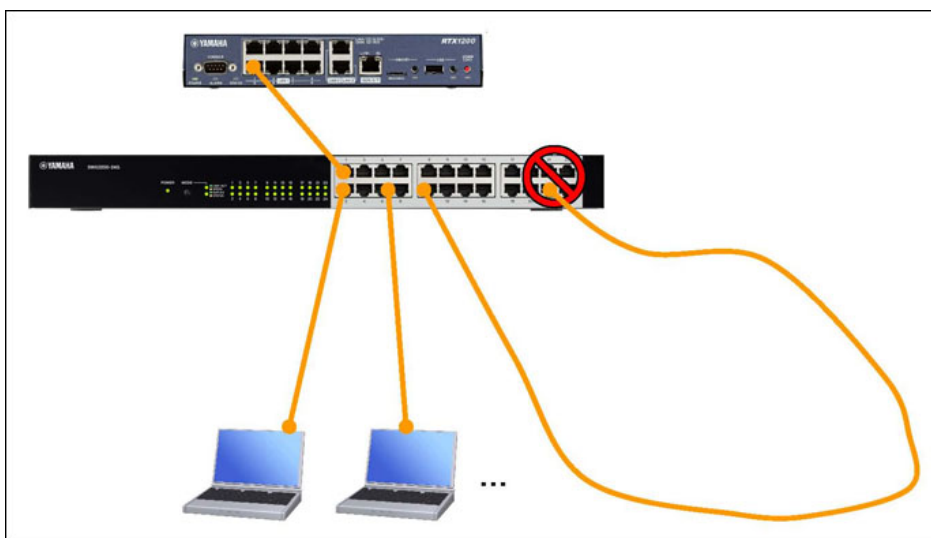
ループ検出機能を設定する

ループ検出機能では、誤ってループ状態が構成されブロードキャスト/マルチキャスト・ストームが発生した場合に自動的にループが発生したポートを一定時間シャットダウンすることができます。

この動作により、ネットワーク全体が利用できなくなる状態を防ぐことができます。

ここでは以下の設定を行う手順を例に説明します。

- ループ状態を検出した場合に、自動で 1200 秒間ポートをシャットダウンするように設定



SWX2200 の各ポートは、初期設定でループ検出を行う設定になっています。また、初期設定では検出ポートの自動シャットダウンは行いません。

1. ループ検出機能の設定を行う SWX2200 の設定画面を表示する。



- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

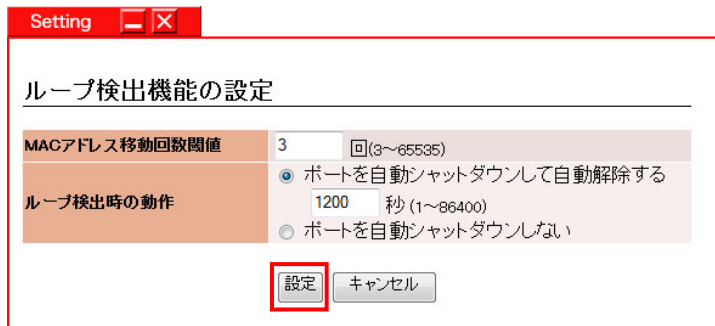
2. 「ループ検出機能の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. ループ検出機能を設定してから、「設定」をクリックする。

ループ検出機能の設定が登録されます。

ループ検出時の動作：「ポートを自動シャットダウンして自動解除する」を選択し、シャットダウンを解除する時間を 1200 秒で設定する



- ループ検出時の動作については「[ループ状態を検出した場合](#)」をご覧ください。
- ループ検出時は、ポート番号が大きい順にポートがシャットダウンします。

特定のポートのループ検出機能を無効にする

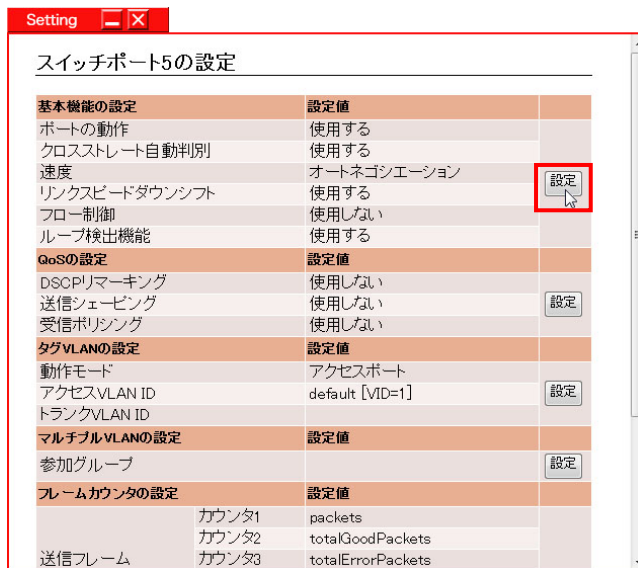
ルーターとの接続ポートなど、ポートの自動シャットダウン対象から外したい場合に設定します。

1. ループ検出機能を無効にするポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「基本機能の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. ループ検出機能を「使用しない」に切り替え、「設定」をクリックする。

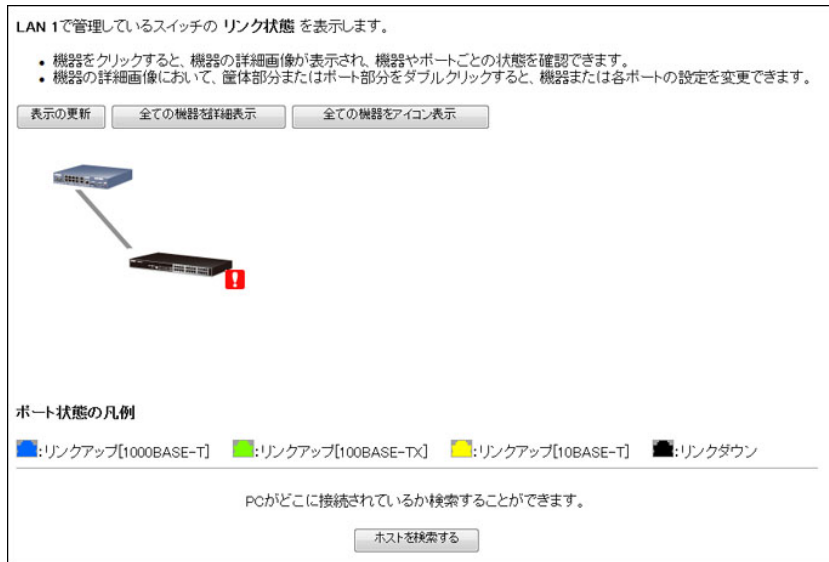
ループ検出機能が無効になります。



ループ状態を検出した場合


ループ状態を検出しポートシャットダウン状態のとき、本体のランプが橙色で点滅して、シャットダウンしているポートを知らせします。

また、異常が発生した SWX2200 に  が表示されます。



- ループ状態が解消されていないと、ポートシャットダウン状態が解除されたときに、再びループを検出しポートシャットダウン状態になります。



- 該当する機器を詳細表示に切り替えることで、どのポートがループしているのか確認することができます。該当するポートに、 が表示されます。



- ループを検出しシャットダウン状態となったポートは、ループ検出時の動作で指定した時間が経過すると自動的にシャットダウン状態が解除され使用可能になります。
- シャットダウン状態となったポートを強制的に使用可能にするには、本体の MODE ボタンを押すか、ヤマハルーターのコマンドを使用して、シャットダウン状態を解除してください。

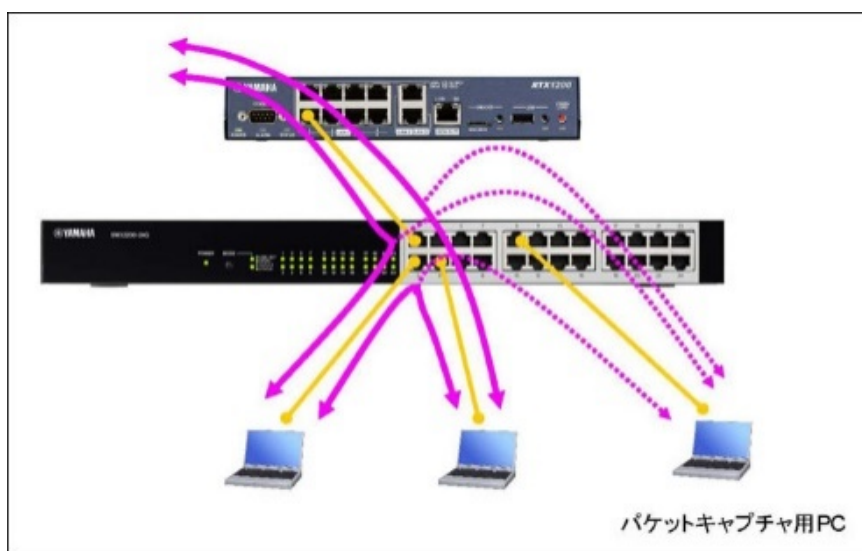
ポートミラーリング機能の設定

ポートミラーリング機能を設定する

ポートミラーリング機能を使用すると、SWX2200 の任意のポートのトラフィックを、指定したポートにコピーすることが可能になります。コピーされたパケットを採取することで通信状況の解析を行うことができます。

ここでは以下の設定を行う手順を例に説明します。

- ポート 1~4 のトラフィックをコピーし、ポート 9 で観察



1. ポートミラーリング機能の設定を行う SWX2200 の設定画面を表示する。



- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「ポートミラーリング機能の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. ポートミラーリング機能を設定してから、「設定」をクリックする。

ポートミラーリング機能の設定が登録されます。

- 動作モード：「使用する」を選択する
- ポート番号 1～4：「監視方向」欄を「送信、受信」に設定する
- ポート番号 9：「スニファポート」欄を選択する



SNMP 機能の設定

SNMP 機能を使用する

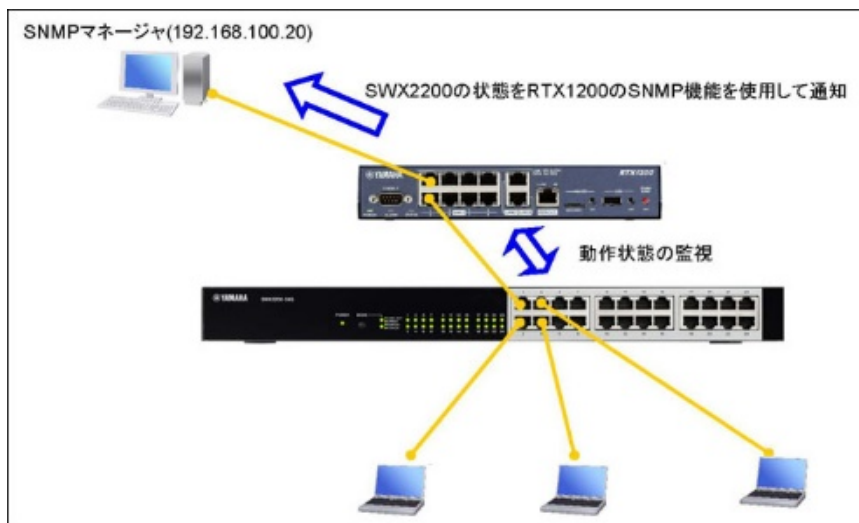
ヤマハルーターの SNMP 機能を使用して、管理下にある SWX2200 のポートの状態を監視したり、ループなどの異常状態をトラップ通知することができます。

ここでは以下の設定を行う手順を例に説明します。

- ヤマハルーター：RTX1200
- RTX1200 の sysName：RTX1200-1
- 送信トラップの種類：全てチェック
- SNMP マネージャの IP アドレス：192.168.100.20



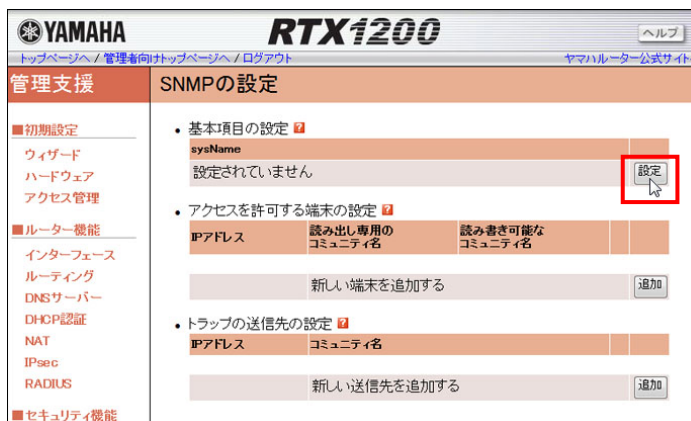
- ヤマハルーターのインターフェース番号について、「[ルーター経由の SNMP でスイッチの状態を取得する方法](#)」をご覧ください。



1. ヤマハルーターの管理者向け設定画面のトップページから、画面左側の「SNMP」をクリックする。



2. 「基本項目の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. sysName と送信トラップの種類を設定し、「確認」をクリックする。

- sysName : 「RTX1200-1」を入力する
- 送信トラップの種類 : 全てをチェックする



4. 設定内容を確認して、「登録」をクリック。

基本項目の設定 [確認]

以下の内容で設定を登録します。
よろしければ「登録」ボタンを押してください。
修正する場合は「戻る」ボタンを押してください。

- sysName: RTX1200-1
- sysLocation:
- sysContact:
- トラップ
 - coldStart: 送信する
 - warmStart: 送信する
 - linkUp: 送信する
 - linkDown: 送信する
 - authenticationFailure: 送信する
- トラップの宛先IPアドレス:

5. 「メイン画面に戻る」をクリックしてから、「アクセスを許可する端末の設定」欄の「追加」をクリックする。

YAMAHA RTX1200

ヘルプ

トップページへ / 管理者向けトップページへ / ログアウト

ヤマハルーター公式サイトへ

管理支援

SNMPの設定

- 初期設定
 - ウィザード
 - ハードウェア
 - アクセス管理
- ルーター機能
 - インターフェース
 - ルーティング
 - DNSサーバー
 - DHCP認証
 - NAT
 - IPsec
 - RADIUS
- セキュリティ機能

基本項目の設定

sysName RTX1200-1

アクセスを許可する端末の設定

IPアドレス	読み出し専用のコミュニティ名	読み書き可能なコミュニティ名
新しい端末を追加する		
		<input type="button" value="追加"/>

トラップの送信先の設定

IPアドレス	コミュニティ名	
新しい送信先を追加する		
		<input type="button" value="追加"/>

6. IPアドレスを設定し、「確認」をクリックする。

IPアドレス: 「指定する」を選択してから、「192.168.100.20」を入力する

アクセスを許可する端末の設定

設定項目	設定値
IPアドレス	<input type="radio"/> すべての端末を許可する <input checked="" type="radio"/> 指定する 192.168.100.20
読み出し専用のコミュニティ名	public
読み書き可能なコミュニティ名	<input type="text"/> ※省略可

7. 設定内容を確認し、「登録」をクリック。

アクセスを許可する端末の設定 [確認]

以下の内容で設定を登録します。
よろしければ「登録」ボタンを押してください。
修正する場合は「戻る」ボタンを押してください。

- IPアドレス: 192.168.100.20
- 読み出し専用のコミュニティ名: public
- 読み書き可能なコミュニティ名:

8. 「メイン画面に戻る」をクリックしてから、「トラップの送信先の設定」欄の「追加」をクリックする。

YAMAHA RTX1200

ヘルプ

トップページへ / 管理者向けトップページへ / ログアウト

ヤマハルーター公式サイトへ

管理支援

SNMPの設定

■初期設定

ウィザード
ハードウェア
アクセス管理

■ルーター機能

インターフェース
ルーティング
DNSサーバー
DHOP認証
NAT
IPsec
RADIUS

■セキュリティ機能

パケットフィルター

●基本項目の設定

sysName
RTX1200-1

●アクセスを許可する端末の設定

IPアドレス	読み出し専用のコミュニティ名	読み書き可能なコミュニティ名		
192.168.100.20	public		<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="削除"/>
新しい端末を追加する				<input type="button" value="追加"/>

●トラップの送信先の設定

IPアドレス	コミュニティ名		
新しい送信先を追加する			

9. IPアドレスを設定し、「確認」をクリックする。

IPアドレス:「192.168.100.20」を入力する

トラップの送信先の設定

設定項目	設定値
IPアドレス	192.168.100.20
コミュニティ名	<input type="text"/> ※省略可

※コミュニティ名を省略したときには「public」になります。

10. 設定内容を確認し、「登録」をクリック。

トラップの送信先の設定 [確認]

以下の内容で設定を登録します。
よろしければ「登録」ボタンを押してください。
修正する場合は「戻る」ボタンを押してください。

- IPアドレス: 192.168.100.20
- コミュニティ名: public

11. 「メイン画面に戻る」をクリックする。

RTX1200 の SNMP 機能が設定されると、自動的に SWX2200 を含めた監視を行う動作になります。



- SWX2200 についての監視ポリシーを変更する場合は、ヤマハルーターのコマンド操作にて行います。

QoS の設定

QoS を設定する

QoS 機能では、SWX2200 の各ポートについて送信帯域や受信帯域を設定できます。

また、ポート毎に、ポートを経由するパケットに DSCP 値を付加することで優先度を指定することもできます。

ここでは以下の設定を行う方法を例に説明します。

- ポート 5 の DSCP 値を優先度最高に設定
- ポート 5 の送信帯域と受信帯域を 10M に設定



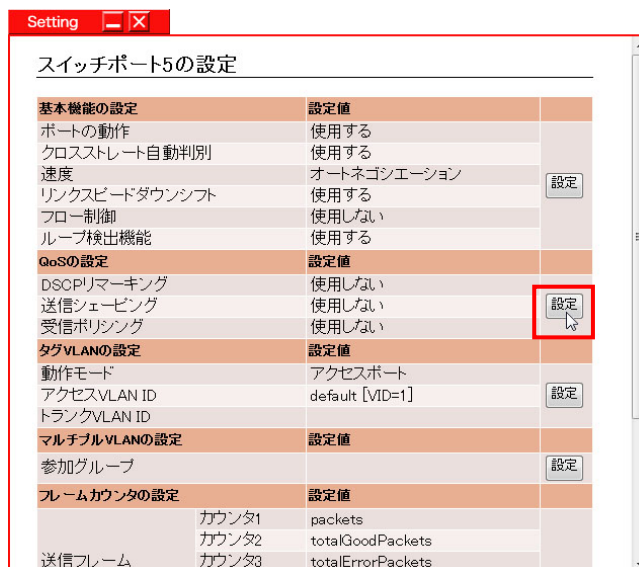
- 送信帯域や受信帯域の設定は、SWX2200-24G のみ可能です。

1. QoS の設定を行うポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

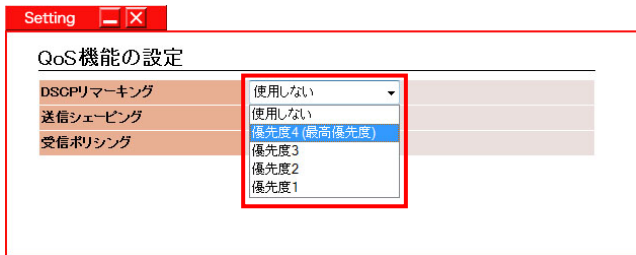
2. 「QoS の設定」欄の「設定」をクリックする。



- 送信シェーピング/受信ポリシングの設定は、SWX2200-24G のみ可能です。

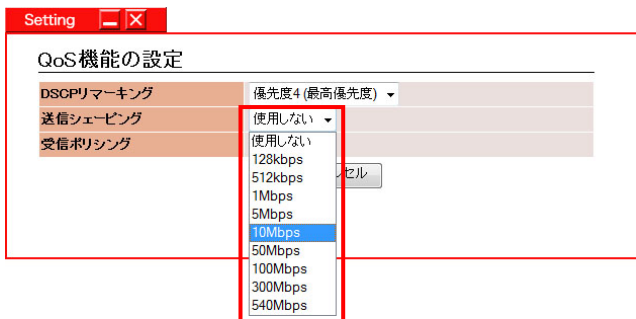
3. DSCP リマーキングについて最適な優先度を選択する。

DSCP リマーキング：「優先度 4(最高優先度)」を選択する



4. 送信シェーピングについて最適な値を選択する。

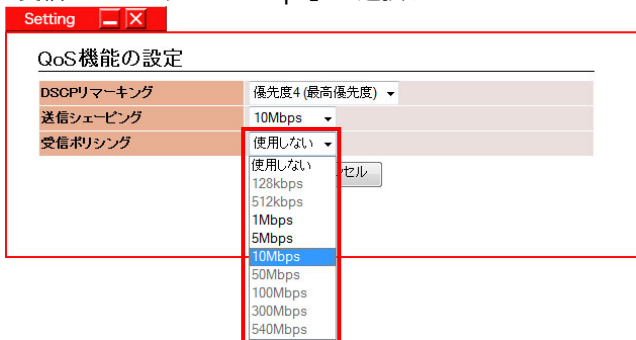
送信シェーピング：「10Mbps」を選択する



- 送信シェーピングと受信ポリシングの選択可能な帯域値は、片方の設定値によって変化します。

5. 受信ポリシングについて最適な値を選択する。

受信ポリシング：「10Mbps」を選択する



- 送信シェーピングと受信ポリシングの選択可能な帯域値は、片方の設定値によって変化します。

6. 「設定」をクリックする。

QoS の設定が登録されます。



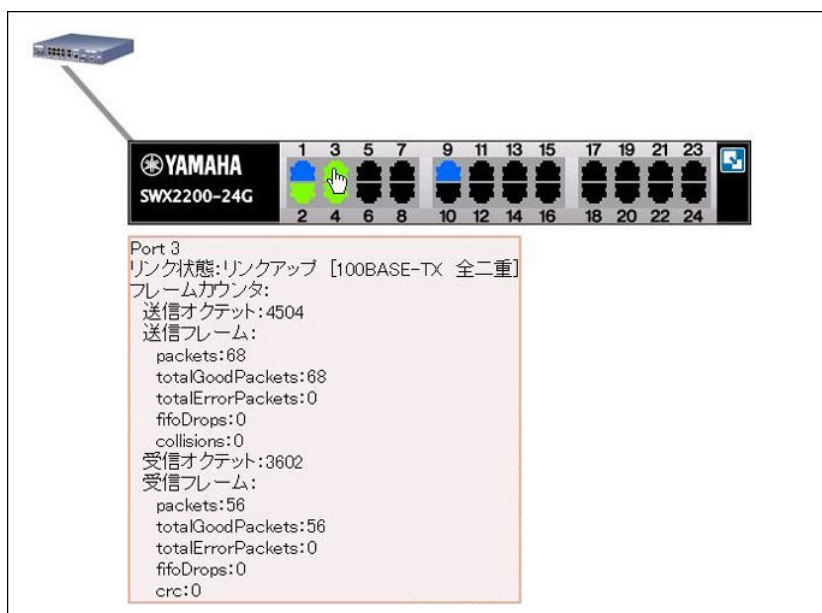
統計情報の設定

統計情報を変更する

詳細表示で、ポートにマウスカーソルを合わせると、ポートの情報が表示されます。その際、表示される統計情報（フレームカウンタ）にどの情報を表示するかを設定することができます。

ここでは以下の設定を行う手順を例に説明します。

- ポート 3 の統計情報として、packets 数、broadcast 数、multicast 数、collisions 数、drops 数を表示



- 表示させる情報を変更すると、これまでの統計情報はリセットされます。

1. 統計情報を変更するポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

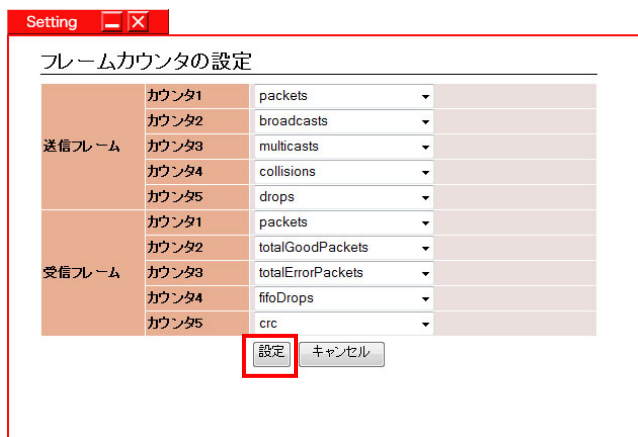
2. 「フレームカウンターの設定」欄の「設定」をクリックする。



3. フレームカウンターの表示内容を設定し、「設定」をクリックする。

統計情報の設定が登録されます。

- カウンタ 1：「packets」を選択する
- カウンタ 2：「broadcast」を選択する
- カウンタ 3：「multicast」を選択する
- カウンタ 4：「collision」を選択する
- カウンタ 5：「drops」を選択する



統計情報をリセットする

SWX2200 毎に統計情報（フレームカウンタ）をリセットすることができます。



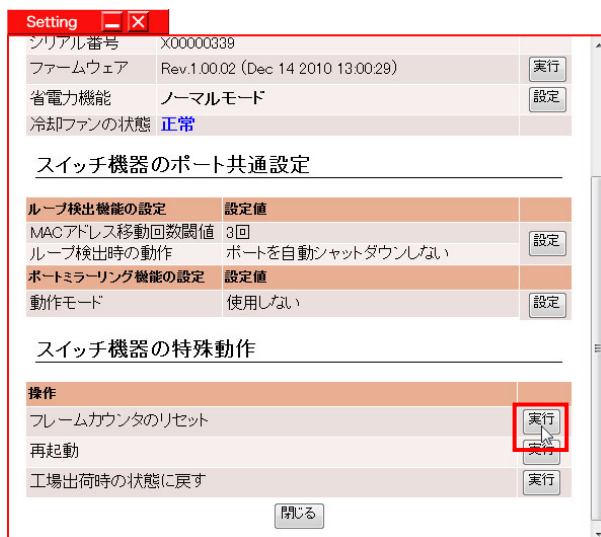
- リセットを行うと全てのポートの情報が初期化されます。

1. 統計情報をリセットする SWX2200 の設定画面を表示する。



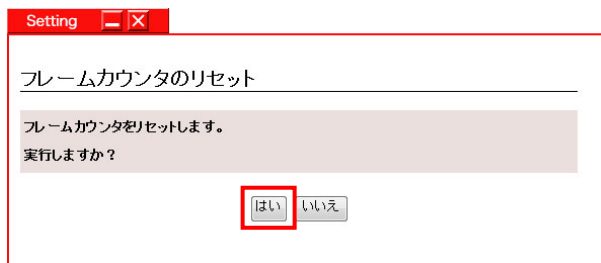
- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「フレームカウンタのリセット」欄の「実行」をクリックする。



3. 「はい」をクリックする。

フレームカウンタの情報がリセットされます。



その他の設定

名称を変更する

SWX2200 の名称を変更することができます。

1. 名称を変更する SWX2200 の設定画面を表示する。



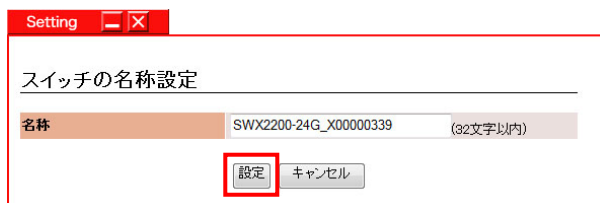
- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「名称」欄の「設定」をクリックする。



3. 任意の名称を入力し、「設定」をクリックする。

SWX2200 の名称が変更されます。



- SWX2200 の名称に使用できる文字は、半角英数字および "-" と "_" になります。

省電力機能を設定する

SWX2200 には待機時の消費電力をカットする消費電力機能が搭載されています。動作モードをエコノミーモードに切り替えることで、電力を節約することができます。

エコノミーモード時の動作

- リンクダウンしているポートの待機電力の低減
- ケーブル長検出による電力供給量の自動調節
- ランプの明るさ調整

1. 省電力機能を設定する SWX2200 の設定画面を表示する。



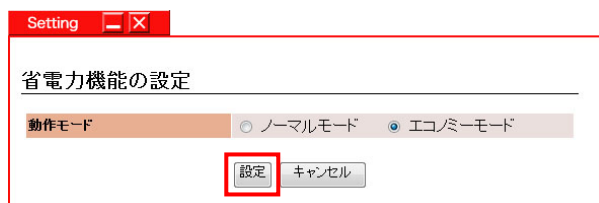
- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「省電力機能」欄の「設定」をクリックする。




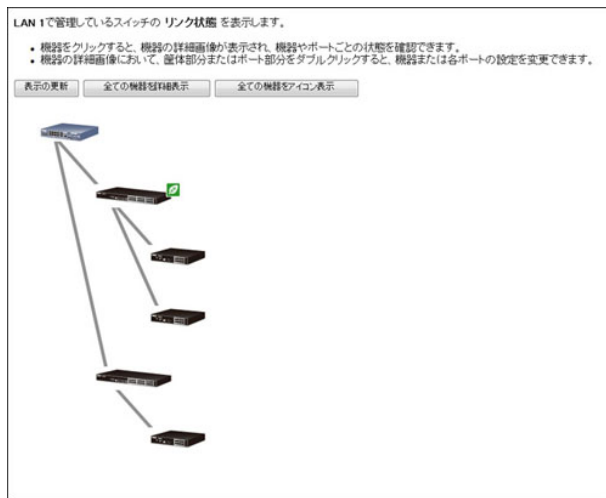
3. 「エコノミーモード」を選択し、「設定」をクリックする。

エコノミーモードに切り替わります。





- エコノミーモードで動作している SWX2200 には  が表示されます。



ファームウェアを更新する

インターネットから SWX2200 の機能を管理するプログラム（ファームウェア）をダウンロードして、最新の機能をご利用いただけます。

SWX2200 では市販の外部メモリ（USB メモリ / microSD カード / USB 接続のハードディスクドライブ）に保存したファームウェアをヤマハルーターに読み込ませて更新します。



- ファームウェアの更新を始めたら、完了して SWX2200 が再起動するまで他の操作は絶対にしないでください。万一、中断したときは SWX2200 が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。
- ファームウェアの更新が完了すると、SWX2200 は自動的に再起動されるため、すべての通信が切断されます。
- ファームウェアの更新中は、絶対にケーブルを抜かないでください。SWX2200 が使えなくなり、持ち込み修理が必要となる場合があります。
- FAT または FAT32 形式でフォーマットされていない外部メモリは、ヤマハルーターでは使用できません。
- USB ハブを介して、複数の USB メモリなどの外部メモリをヤマハルーターに接続することはできません。
- ヤマハルーターの USB ランプまたは microSD ランプが点灯 / 点滅している間は、外部メモリを取り外さないでください。外部メモリ内のデータを破損することがあります。USB ボタンまたは microSD ボタンを 2 秒間押し続けて、USB ランプまたは microSD ランプが消灯していることを確認してから外部メモリを取り外してください。



- ファームウェアの詳しい更新手順については「[ファームウェアの更新手順](#)」をご覧ください。

1. ファームウェアを保存した外部メモリを用意する。
2. 外部メモリをヤマハルーターの USB ポートまたは microSD ポートに差し込む。
3. ファームウェアの更新を行う SWX2200 の設定画面を表示する。

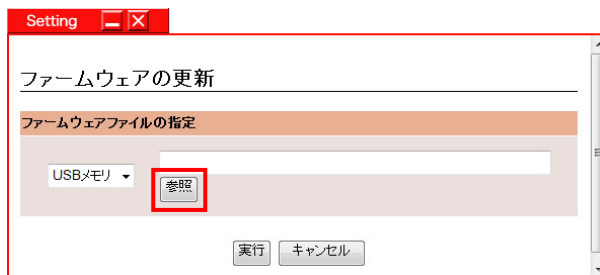


- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

4. 「ファームウェア」欄の「実行」をクリックする。



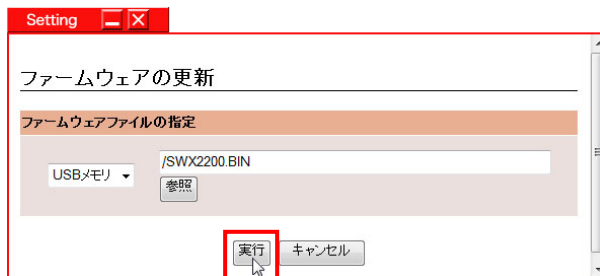
5. 外部メモリの種類を選択し、「参照」をクリックする。



6. 更新に使用するファームウェアの「選択」をクリックする。

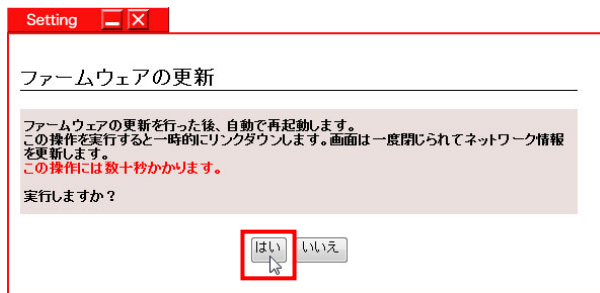


7. 「実行」をクリックする。



8. 「はい」をクリックする。

ファームウェアの更新が始まります。



再起動する

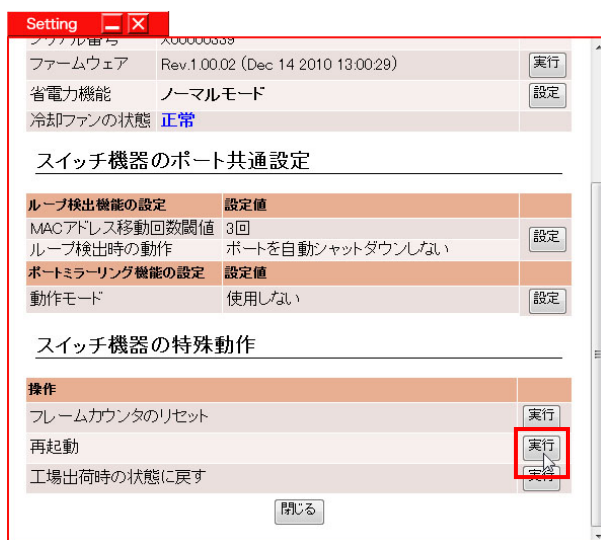
SWX2200 を再起動することができます。

1. 再起動させる SWX2200 の設定画面を表示する。



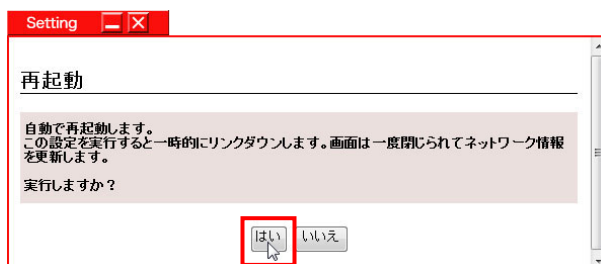
- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「再起動」欄の「実行」をクリックする。



3. 「はい」をクリックする。

SWX2200 が再起動します。



設定を初期化する

■ SWX2200 設定ページから初期化する

SWX2200 の設定内容を工場出荷状態に戻すことができます。



- 設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合は、以下の点にご注意ください。
 - 実行した直後にすべての通信が切断されます。
 - 初期設定値が存在する設定は、初期設定値に変更されます。
 - 操作を完了した後に、設定内容を元の状態に戻すことはできません。

1. 初期化する SWX2200 の設定画面を表示する。



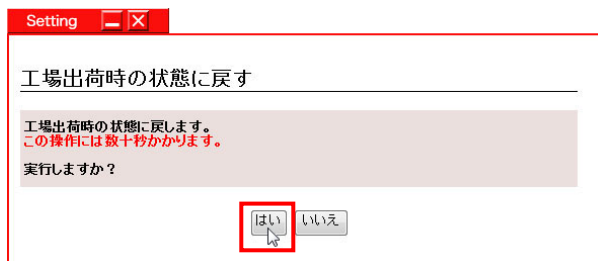
- SWX2200 の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「工場出荷時の状態に戻す」欄の「実行」をクリックする。



3. 「はい」をクリックする。

SWX2200 の設定が初期化されます。



■ SWX2200 本体から初期化する

SWX2200 の設定内容を工場出荷状態に戻すことができます。



- 設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合は、以下の点にご注意ください。
 - 実行した直後にすべての通信が切断されます。
 - 初期設定値が存在する設定は、初期設定値に変更されます。
 - 操作を完了した後に、設定内容を元の状態に戻すことはできません。

1. ヤマハルーター側で SWX2200 に関する設定を初期化する。



- ヤマハルーターでの SWX2200 に関する設定の初期化については、[「L2MS」](#) – 「コマンド」 – 「スイッチの設定の削除」をご覧ください。

2. SWX2200 本体の MODE ボタンを押しながら電源を入れる。

SWX2200 の設定が初期化されます。

機能追加

機器の名称表示

機器の名称が常に表示されるようになりました。



- 機器の名称を変更するには「[名称を変更する](#)」をご覧ください。

LAN 1で管理しているスイッチのリンク状態を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新 全ての機器を詳細表示 全ての機器をアイコン表示

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。

```
graph TD; A[Switch Icon] --- B[SWX2200-24G_S37003900]; B --- C[SWX2200-8G_S36007333];
```

接続ポートの表示

機器の表示を詳細表示に切り替えると、機器間の接続ポートが表示されます。



- 機器の表示を切り替えるには「[機器の表示を切り替える](#)」をご覧ください。

LAN 1 で管理しているスイッチの リンク状態 を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。



LAN 1 で管理しているスイッチの リンク状態 を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。

ホストの一覧表示

各ポートに接続されているホストを一覧表示することができます。

1. 接続ホストを確認するポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「接続ホスト一覧表示」をクリックする。



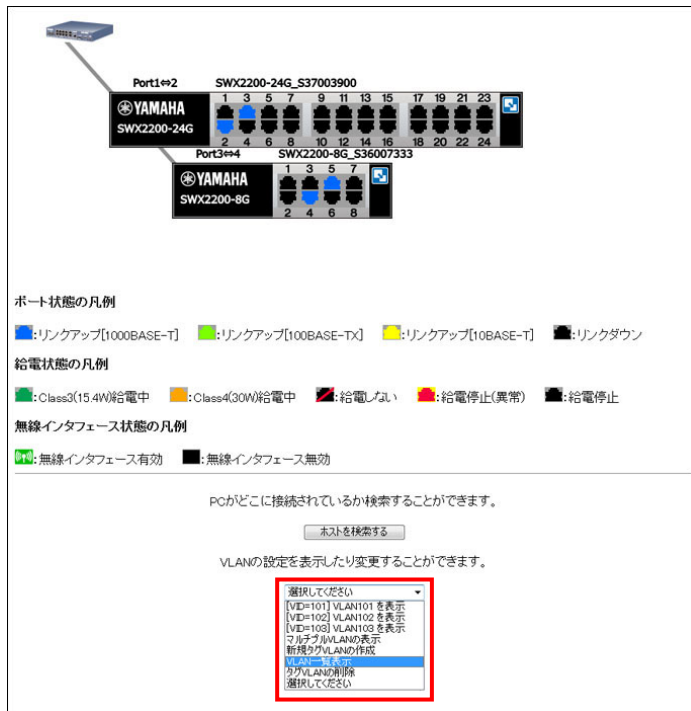
3. 接続ホストを確認する。



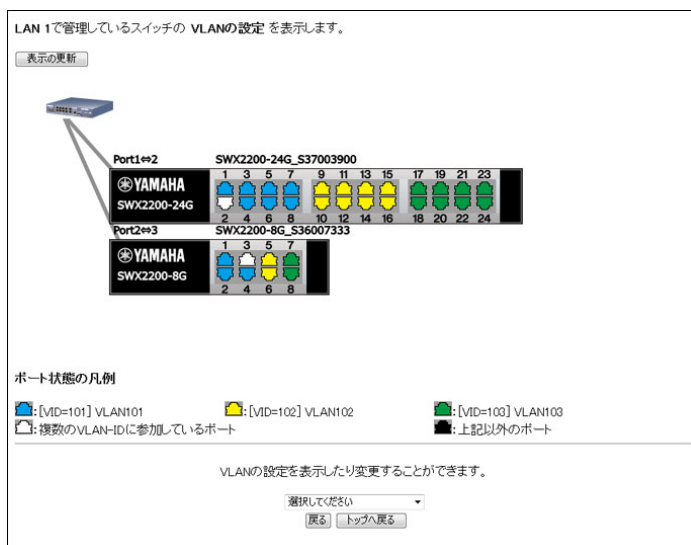
タグ VLAN の一覧表示

設定されている全てのタグ VLAN の情報を、VLAN ID ごとに色分けして表示することができます。

1. SWX2200 設定ページ下部のプルダウンメニューから、「VLAN 一覧表示」を選択する。

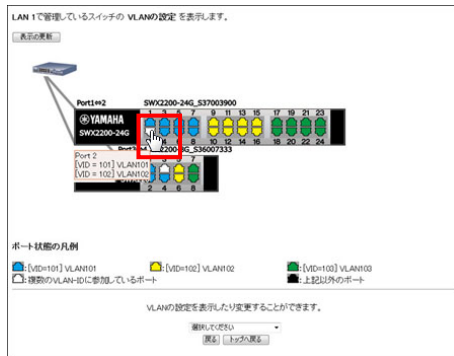


2. タグ VLAN の設定状態を確認する。





- ポートにマウスカーソルを合わせると、所属している VLAN の一覧が表示されます。



LAN ケーブル二重化機能

ルーターと SWX2200 の間や、SWX2200 同士の間で LAN ケーブルを二重化し、ネットワークの信頼性を向上させる機能です。二重化することで、主ケーブルの断線や抜けによって接続が切れてしまったときに、自動的にバックアップケーブルがリンクアップして、ネットワークを継続して利用することができます。

本機能では主ケーブルが接続されている機器間のことをマスター経路、バックアップケーブルが接続されている機器間のことをバックアップ経路と呼びます。



- 本機能の設定前にバックアップ経路にケーブルを接続するとループが発生してしまうことがあります。ケーブルの接続は、本機能の設定後に行ってください。

ここではポート 3 にバックアップ経路を接続する方法を例に説明します。



- LAN ケーブル二重化機能の技術資料については「[LAN ケーブル二重化機能](#)」をご覧ください。

1. ルーターの設定画面を表示する。



- ルーターの設定画面の表示については「[設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

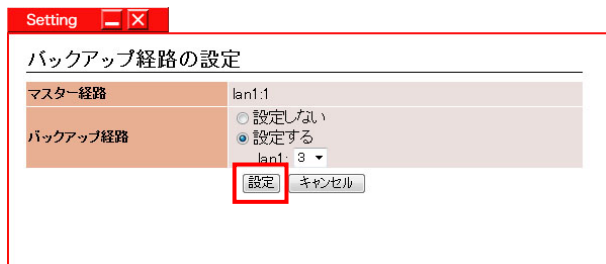
2. バックアップ経路を設定する機器の「バックアップ経路」欄の「設定」をクリックする。



3. バックアップ経路を設定してから、「設定」をクリックする。

バックアップ経路の設定が登録されます。

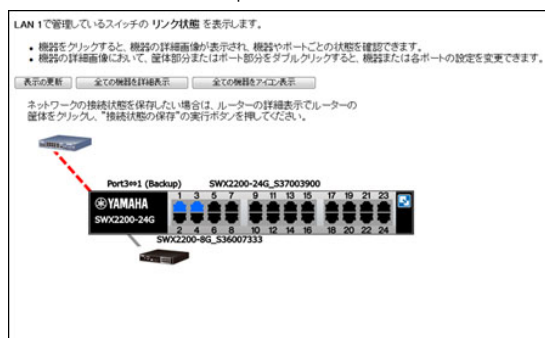
「設定する」を選択し、バックアップ経路を接続するポート 3 を設定する



4. バックアップ経路として設定したポートに LAN ケーブルを接続する。



- バックアップ経路で通信が行われているとき、経路が赤い点線で表示されます。また、接続ポート情報には「Backup」の文字が表示されます。



指定方法の変更

SWX2200 の設定をヤマハルーター内に保存することができます。設定を保存しておけば、本機が故障した際に保存時の設定状態まで復旧することができます。

SWX2200 の設定を保存する際に、設定情報を経路で管理するのか、MAC アドレスで管理するのかを指定することができます。

経路での管理:

SWX2200 の故障などで機器を入れ替えても、同じポートに接続された SWX2200 に対して保存時の設定状態まで復旧することができます。

MAC アドレスでの管理:

SWX2200 の接続ポートを変更しても、その機器に対して保存時の設定状態まで復旧することができます。



- 指定方法の技術資料については「[スレーブの指定方法](#)」をご覧ください。

1. ルーターの設定画面を表示する。



- ルーターの設定画面の表示については「[設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 指定方法を変更する機器の「指定方法の変更」欄の「実行」をクリックする。



- 「実行」をクリックするたびに、「経路指定」と「MAC アドレス指定」が交互に切り替わります。

3. 「はい」をクリックする。

指定方法が変更されます。



スナップショット機能

現在のネットワークの接続状態と事前に保存したネットワークの接続状態を比較して、違いがあった場合に警告メッセージを表示する機能です。機器の LAN ケーブルや電源コードが抜けてしまったときや LAN ケーブルの接続ポートが変更されてしまったときに、SWX2200 設定ページで異常を確認することができます。

本機能ではネットワークの接続状態を保存することで、現在のネットワークの接続状態との比較が行われるようになります。



- スナップショット機能の技術資料については「[スナップショット機能](#)」をご覧ください。

1. ルーターの設定画面を表示する。



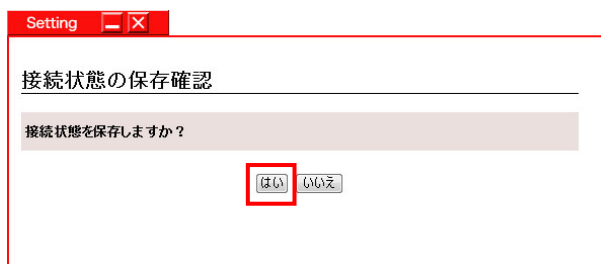
- ルーターの設定画面の表示については「[設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「操作」欄の「実行」をクリックする。




3. 「はい」をクリックする。

現在のネットワークの接続状態が保存されます。





- ネットワークの接続状態を変更したい場合は、再度上記手順を行ってください。
- 違いが発生した場合、警告メッセージと該当する機器に  が表示されます。また、該当する機器にマウスカーソルを合わせると詳細情報が表示されます。

LAN 1で管理しているスイッチのリンク状態を表示します。


- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、全体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

接続ポートが異なるスイッチがあります。

- 別のポートにケーブルが接続されている
- リンクアップ経路に切り替わっている
- などの可能性があります。

ケーブルの接続やポートのリンク状態を確認してください。



接続ポートが異なります
正しくは本機のポート4とSWX2200-24G_S37003900のポートaが接続されます

機器の名称: SWX2200-8G_S36007333
機器名: SWX2200-8G
MACアドレス: 00:a0:de:82:b8:44
省電力機能: ノーマルモード

ポート状態の凡例
■: リンクアップ[100BASE-T] ■: リンクアップ[100BASE-TX] ■: リンクアップ[10BASE-T] ■: リンクダウン

LAN 1で管理しているスイッチのリンク状態を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、全体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

見つからないスイッチがあります。

- ケーブルが抜けている
- スイッチの電源が切れている
- などの可能性があります。

機器の電源やケーブルの接続、ポートのリンク状態を確認してください。



スイッチが見つかりません

機器の名称: SWX2200-8G_S36007333
機器名: SWX2200-8G
MACアドレス: 00:a0:de:82:b8:44

ポート状態の凡例

SWX2200-8PoE のみの機能

機器情報の表示

機器にマウスカーソルを合わせた際、表示される機器情報に「冷却ファンの回転数」と「内部温度」が追加されました。また、設定画面にも同じ項目が追加されました。



- 機器情報の表示については「[機器情報の表示](#)」をご覧ください。
- 設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

LAN 1で管理しているスイッチの **リンク状態** を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画面が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画面において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新 全ての機器を詳細表示 全ての機器をアイコン表示

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。

機器の名称: SWX2200-8PoE_S45000315
 機器名: SWX2200-8PoE
 MACアドレス: 00:a0:de:83:41:82
 省電力機能: ノーマルモード
 冷却ファン1: 4800rpm 2: 4660rpm
 内部温度: 28°C

ポート状態の凡例

■: リンクアップ[1000BASE-T] ■: リンクアップ[100BASE-TX] ■: リンクアップ[10BASE-T] ■: リンクダウン

給電状態の凡例

■: Class3(15.4W)給電中 ■: Class4(30W)給電中 ■: 給電しがい ■: 給電停止(異常) ■: 給電停止

無線インタフェース状態の凡例

■: 無線インタフェース有効 ■: 無線インタフェース無効

PCがどこに接続されているか検索することができます。

Setting

スイッチ機器の設定・状態表示

設定項目	設定値	
名称	SWX2200-8PoE_S45000315	設定
機種名	SWX2200-8PoE	
MACアドレス	00:a0:de:83:41:82	
シリアル番号	S45000315	
ファームウェア	Rev.1.01.03 (Mar 08 2013 09:54:14)	実行
省電力機能	ノーマルモード	設定
冷却ファンの状態	Fan1: 4752rpm Fan2: 4897rpm	
内部温度	28 °C	


スイッチ機器のポート共通設定

ループ検出機能の設定	設定値	
MACアドレス移動回数閾値	3回	設定
ループ検出時の動作	ポートを自動シャットダウンしがい	

ポートミラーリング機能の設定	設定値	
動作モード	使用しがい	設定

スイッチ機器の特殊動作

ポート情報の表示

ポートにマウスカーソルを合わせた際、表示されるポート情報に「給電状態」と「消費電力」が追加されました。また、 をクリックすることで、ポートの給電状態をアイコンでも確認することができます。



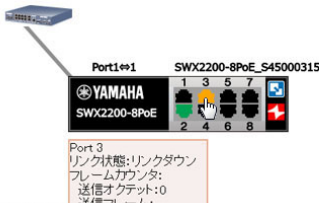
- ポート情報の表示については「[ポート情報の表示](#)」をご覧ください。

LAN 1で管理しているスイッチの リンク状態 を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。



Port 1
リンク状態:リンクダウン
フレームカウンタ:
送信オクテット:0
送信フレーム:
packets:0
total-good-packets:0
total-error-packets:0 アップ[100BASE-TX] リンクアップ[10BASE-T] リンクダウン
受信オクテット:0
受信フレーム:
packets:0
total-good-packets:0 給電中 給電しない 給電停止(異常) 給電停止
total-error-packets:0
給電状態:給電中(Class4)
消費電力:0

ポート状態の凡例
●:リンクアップ[100BASE-TX] ●:リンクアップ[10BASE-T] ●:リンクダウン

給電状態の凡例
●:Class3(15.4W) 給電中 給電しない 給電停止(異常) 給電停止

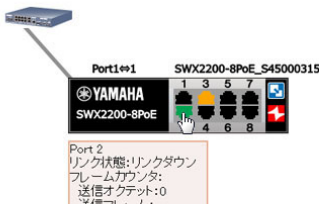
無線インタフェース

LAN 1で管理しているスイッチの リンク状態 を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。



Port 2
リンク状態:リンクダウン
フレームカウンタ:
送信オクテット:0
送信フレーム:
packets:0
total-good-packets:0
total-error-packets:0 アップ[100BASE-TX] リンクアップ[10BASE-T] リンクダウン
受信オクテット:0
受信フレーム:
packets:0
total-good-packets:0 給電中 給電しない 給電停止(異常) 給電停止
total-error-packets:0
給電状態:給電中(Class0)
消費電力:16

ポート状態の凡例
●:リンクアップ[100BASE-TX] ●:リンクアップ[10BASE-T] ●:リンクダウン

給電状態の凡例
●:Class3(15.4W) 給電中 給電しない 給電停止(異常) 給電停止

無線インタフェース

給電設定を変更する

SWX2200-8PoE には PoE による給電機能が搭載されています。ポート毎で給電機能を設定できます。

ここでは給電機能を Class3 にする方法を例に説明します。

1. 給電機能を設定するポートの設定画面を表示する。



- ポートの設定画面の表示については「[SWX2200 のポートの設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「給電 Class の設定」欄の「設定」をクリックする。



3. 「Class3(15.4W)」を選択し、「設定」をクリックする。

給電機能の設定が切り替わります。



Class4(30W):

Class4、Class3、Class2、Class1、Class0 すべての機器に給電します。

Class3(15.4W):

Class3、Class2、Class1、Class0 の機器に給電します。

Class4 の機器には給電しません。

給電しない:


どの Class の機器にも給電しません。



- 下段ポート (PORT2,4,6,8) は、Class4 機器には対応していないため、設定項目の Class4(30W)が表示されません。

給電を再開する

SWX2200-8PoE はファンの動作状況や本機の内部温度を常に監視し、異常を検知すると給電をストップします。


また、異常が発生した SWX2200-8PoE に  が表示されます。

LAN 1 で管理しているスイッチの リンク状態 を表示します。

- 機器をクリックすると、機器の詳細画像が表示され、機器やポートごとの状態を確認できます。
- 機器の詳細画像において、筐体部分またはポート部分をダブルクリックすると、機器または各ポートの設定を変更できます。

表示の更新

ネットワークの接続状態を保存したい場合は、ルーターの詳細表示でルーターの筐体をクリックし、「接続状態の保存」の実行ボタンを押してください。



SWX2200-8PoE_S45000315

ポート状態の凡例

- : リンクアップ[1000BASE-T]
- : リンクアップ[100BASE-TX]
- : リンクアップ[10BASE-T]
- : リンクダウン

給電状態の凡例

- : Class3(15.4W)給電中
- : Class4(30W)給電中
- : 給電しない
- : 給電停止(異常)
- : 給電停止

無線インタフェース状態の凡例

異常を取り除いた後に給電を再開してください。

再開できる場合:

- PoE 給電で過電流が生じて給電停止している場合
- 本機の筐体内部温度が 60 度以上で給電停止したが、その後温度が 60 度未満になっている場合

再開できない場合:

- 本機の筐体内部温度が 60 度以上の場合
- 本機のファン異常によって給電停止している場合
- 本機の電源異常によって給電停止している場合

1. 給電を再開する SWX2200-8PoE の設定画面を表示する。



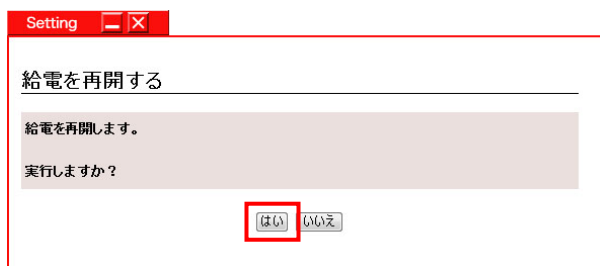
- SWX2200-8PoE の設定画面の表示については「[SWX2200 の設定画面を表示する](#)」をご覧ください。

2. 「給電を再開する」欄の「実行」をクリックする。



3. 「はい」をクリックする。

給電が再開されます。



FAQ

ネットワークに接続できない

VLAN を設定した後に、SWX2200 の接続構成を変更した

VLAN の設定後に接続構成を変更すると、経路が確立できずネットワークに接続できなくなります。その際は、接続構成を戻すか、SWX2200 の設定を初期化してください。

初期化については「[SWX2200 本体から初期化する](#)」をご覧ください。

SWX2200 本体から初期化できない

ヤマハルーター側で SWX2200 に関する設定を初期化せずに、SWX2200 の初期化を行っている

SWX2200 は初期化後の起動時にヤマハルーターを認識すると、ルーター内に保存されている設定情報を読み込みます。そのため、ルーター側の初期化を行わずに SWX2200 を初期化すると、設定内容を工場出荷状態に戻すことができません。SWX2200 を初期化する際は、必ずヤマハルーター側で SWX2200 に関する設定を初期化してから行ってください。

初期化については「[SWX2200 本体から初期化する](#)」をご覧ください。